

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 / 本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。1年次履修「社会福祉概論」、を踏まえて本科目を理解する必要がある、2年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、3年次後期履修「社会福祉施設経営論」、3年次後期履修「ソーシャルワーク論」、4年次前期履修「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要 / 地域福祉の基本的考え方(講義1-5)、地域福祉の主体と対象(講義6-8)、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民(講義9-12)、地域福祉の推進方法(講義13-14)について理解する。

学修目標 / 概要と以下の4点の目標と講義内容を確認し、テキストを事前によく読み、講義で理解するよう努力し、ノートを整理して事後学習を心がける。また、随時配布される資料やリアクションペーパーで授業内容の振り返りを活用し、より理解を深められるようにする。

1. 地域福祉の理念について理解する
2. 福祉教育について理解する
3. 地域福祉に関わる行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する
4. 地域福祉の推進方法について理解する

内容

1	地域福祉とは何か
2	新しい社会福祉システムとしての地域福祉
3	地域福祉の発展過程
4	地域福祉の基本的な考え方
5	地域福祉推進の具体的な活動
6	地域福祉の主体と福祉教育
7	福祉教育の考え方
8	福祉教育の具体的な活動と展開方法
9	地域福祉計画と地域福祉活動計画
10	社会福祉協議会
11	地域福祉に係る組織、団体
12	地域福祉に係る専門職や地域住民
13	地域福祉推進方法としてのコミュニティソーシャルワーク
14	コミュニティソーシャルワークの展開方法
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30点)と、学修目標に基づく国家試験形式のペーパーテスト(60点)、通常の授業態度(

10点)、三分の二以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座第9巻『地域福祉の理論と方法』第2版 中央法規株式会社

【参考図書】地域福祉事典 / 日本地域福祉学会編集 図書館（請求記号:369/C）

その他必要に応じて随時教室で紹介する

科目名	社会福祉概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	社会福祉概論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	養護原理		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 社会的養護される子どもの状況について理解する。
- 2 社会的養護の体系、児童福祉施設、及び里親について理解する。
- 3 児童福祉施設における養護の実際を理解する。
- 4 児童福祉施設の職員の役割などについて理解する。
- 5 児童観、施設及び里親養護観を養う。

内容

1	児童養護の概念
2	子どもの権利
3	養育
4	保護
5	治療的援助
6	自立
7	社会的養護の概要
8	乳児院
9	児童養護施設 1
10	児童養護施設 2
11	児童自立支援施設
12	情緒障害児短期治療施設
13	里親養護 1
14	里親養護 2
15	まとめ

評価

レポート40点、試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

児童の福祉を支える 社会的養護 坂本正路他 萌文書林

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

総合的かつ包括的相談援助の動向と専門職の機能の展開を理解するとともに、相談援助にかかわる専門職の概念と範囲及び専門職倫理について理解する。

内容

1	相談援助における権利擁護の意義
2	相談援助専門職の概念と範囲
3	福祉行政等における専門職
4	民間の施設・組織における専門職
5	諸外国の動向：イギリス
6	諸外国の動向：ドイツ、アメリカ
7	専門職倫理の概念
8	専門職倫理
9	倫理的ジレンマ
10	倫理的ジレンマの実際
11	ジェネラリストの視点に基づく総合的かつ包括的な相談援助の意義と内容
12	ソーシャルワークにおける総合的・包括的な援助の実際
13	ジェネラリストの視点に基づく他職種連携(チームアプローチ)の意義と内容
14	総合的かつ包括的な相助と他職種連携の意義と内容
15	まとめ

評価

レポート40点、試験60点により評価を行い、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「相談援助の基盤と専門職」(新・社会福祉士養成講座)中央法規

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

ソーシャルワークの理論と方法について学習する。社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。相談援助における人と環境との交互作用に関する理論について理解する。また、相談援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。システム理論およびソーシャルワークの各種アプローチモデルを理解し、その概要を説明できるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	人と環境の交互作用 (一般システム理論、自己組織性、オートポエシス理論)
3	相談援助の対象
4	様々な実践モデルとアプローチ 1 治療モデル
5	様々な実践モデルとアプローチ 2 生活モデル
6	様々な実践モデルとアプローチ 3 ストレングスモデル
7	様々な実践モデルとアプローチ 4 心理社会的アプローチ
8	様々な実践モデルとアプローチ 5 機能的アプローチ
9	様々な実践モデルとアプローチ 6 問題解決アプローチ
10	様々な実践モデルとアプローチ 7 課題中心アプローチ
11	様々な実践モデルとアプローチ 8 危機介入アプローチ
12	様々な実践モデルとアプローチ 9 行動変容アプローチ
13	様々な実践モデルとアプローチ 10 エンパワメントアプローチ
14	家族療法とシステムズアプローチ
15	まとめ 評価

評価

ミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉養成講座8 社会福祉士シリーズ 相談援助の理論と方法』中央法規
その他授業中に指示。

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助の過程について理解する。また本授業は社会福祉士受験資格取得のための指定科目でもある。 相談援助の基本的過程、相談援助における専門的援助関係、相談援助のための面接とその技術、ケースマネジメント(ケアマネジメント)について理解する。 相談援助の過程及び面接とその技術について理解し、その概要を説明できるようになる。また専門的援助関係について理解し、例をあげて説明できるようになる。

内容

1	オリエンテーション
2	相談援助の過程：インテーク
3	相談援助の過程：アセスメント
4	相談援助の過程：プランニング、モニタリング
5	相談援助の過程：評価、終結、アフターケア
6	ケースマネジメント(ケアマネジメント)
7	相談援助における専門的援助関係：概要
8	相談援助における専門的援助関係：自己覚知
9	相談援助における専門的援助関係：自己の活用
10	相談援助における専門的援助関係：自己覚知と感情転移
11	相談援助のための面接技術：概要
12	相談援助のための面接技術：積極的傾聴、基本姿勢、プローブ
13	相談援助のための面接技術：リフレクション、質問、フィードバック
14	相談援助のための面接技術：ソリューションフォーカスアプローチなど
15	授業のまとめ

評価

ミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書：社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉養成講座7・8 社会福祉士シリーズ 相談援助の理論と方法
・ 』中央法規

科目名	公的扶助論		
担当教員名	長友 祐三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

公的扶助は社会保障・社会福祉制度の一環として、社会保険とともに国民の経済保障機能と社会福祉サービス機能を有するもので、わが国の場合、生活保護制度がこれに該当する。

本講義では、最近の生活保護の動向及び生活保護制度における現実的課題などを紹介し、最低生活保障における給付と社会福祉の援助・支援とは何かをソーシャルワークの視点から理解する。また、事例を通して、生活保護の制度運営と制度運用の現状と課題についても学ぶ。

本講義の履修にあたっては、原則として公的扶助論が履修済みであること。

内容

- 1 貧困をどうとらえるか
- 2 貧困問題とは何か
- 3 貧困と社会的排除について考える
- 4 貧困とセーフティネットについて考える
- 4 福祉国家と公的扶助制度の形成
- 5～6 生活保護法の理念と原理を学ぶ
最低生活保障とは何か
- 7～9 生活保護法の理念と原理を学ぶ
自立の助長とは何か
- 10 公的扶助制度におけるスティグマの検討
- 11 公的扶助制度におけるアウトリーチの検討
- 12 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 13 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 14 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 15 公的扶助ソーシャルワークをめぐるの諸課題

評価

小レポート3回(30%)と期末時のレポート(70%)による総合評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

前期「公的扶助論」で使用した教科書を使います

科目名	地域福祉論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 / 本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「地域福祉の基盤整備と開発に関する知識と技術」に関する科目の1つ「地域福祉の理論と方法」であり、「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「地域の福祉ニーズを把握し、不足するサービスの創出を働きかける技術」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。1年次履修「社会福祉概論」を踏まえて本科目を理解するの必要があり、2年次後期履修「福祉行財政と福祉計画」、3年次後期履修「社会福祉施設経営論」、3年次後期履修「ソーシャルワーク論」、4年次前期履修「ソーシャルワーク論」とも関連性がある。

科目の概要 / 地域福祉の推進方法(講義1-14)、地域福祉に係る組織や団体及び専門職や地域住民(講義1,2,4,5,8)、地域福祉の基本的考え方(講義14)について理解する。

学修目標 / 概要と以下の3点の目標と講義内容を確認し、テキストを事前によく読み、講義で理解するよう努力し、ノートを整理して事後学習を心がける。また、随時配布される資料やリアクションペーパーで授業内容の振り返りを活用し、より理解を深められるようにする。

- 1.地域福祉の推進方法について理解する
- 2.地域福祉に関わる行政及び民間組織、専門職の役割と実際を理解する
- 3.日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方について理解する

内容

1	多職種協働体制の重要性
2	専門職と住民の関係
3	コミュニティソーシャルワークを機能させるためのソーシャルワーカーの視点
4	地域福祉の推進における住民参加の意義
5	住民参加の方法
6	ソーシャルサポートネットワーク
7	社会資源の活用・調整
8	共同募金や助成金制度
9	社会資源の開発
10	地域福祉におけるアウトリーチの意義
11	地域における福祉ニーズの把握方法と実際
12	地域トータルケアシステム
13	地域における福祉サービスの評価方法と実際
14	日本の地域福祉に影響を与えた海外の考え方
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30点)と、学修目標に基づく国家試験形式のペーパーテスト(60点)、通常の授業態度(

10点)、三分の二以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座第9巻「地域福祉の理論と方法」第2版 中央法規株式会社

【参考図書】地域福祉事典 / 日本地域福祉学会編集 図書館（請求記号:369/C）

その他必要に応じて随時教室で紹介する

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：社会福祉専門科目の中で社会福祉の各分野と深く関連した科目として位置付ける。人間が社会的な存在である以上、こどもから高齢者に至るすべてのライフステージで心身の健康が損なわれる機会があり、とりわけ精神疾患をわずらうことで社会的な不利がもたらされる場合が多い。社会的な制度の立ち遅れや社会的偏見の歴史から、人間の支援に係る専門職の理解がまず重要である。

これら課題と展望を学ぶ。

科目の概要：まず、精神保健福祉の意義、精神障がい基礎知識、精神保健福祉制度の概要について理解する。ついで、生活の場及びライフサイクルにおける精神保健福祉の役割について理解し、この中で多様な支援の広がりについて理解する。また、精神保健福祉の歴史的、社会的背景を学ぶ。とりわけ脱施設化、地域での当たり前の暮らしの実現に向けての支援課題を理解する。そのために、地域支援が展開されている市町村や福祉実践の場の見学、発表を行う。

- 学修の目標：1 精神保健福祉の歴史的形成過程を理解する。
 2 我が国の精神障がい者の医療、暮らしの実態を理解する。
 3 国内外の精神保健福祉の取り組みや新しい動向を理解する。

内容

1	精神保健福祉の課題を考える
2	精神保健福祉の歴史から見た精神障害者施策の概況
3	精神疾患の理解(1)精神保健福祉の理解に必要な主な疾患と対応
4	精神疾患の理解(2)統合失調症とその回復
5	精神科リハビリテーション援助技術～かわりのスキル
6	精神保健福祉法形成過程の理解
7	様々な回復の「場」から
8	家族支援とその課題
9	生活保護法と退院促進事業の展開
10	地域生活支援に必要な多職種連携の実際
11	イタリアの精神医療改革と我が国の課題
12	当事者からのメッセージ(1)アルコール依存症からの回復
13	当事者からのメッセージ(2)大宮・やどかりの里から
14	課題提出・まとめ
15	振り返り

評価

課題の提出 20%、発表 30%、最終試験 50%

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】野末浩之「こころ・からだ・暮らし」精神障害者の理解と地域支援 萌文社

【推薦書】大熊一夫「精神病院を捨てたイタリア、捨てない日本」岩波書店

藤本豊編「よくわかる精神保健福祉」ミネルバ書房

野中猛「精神障害リハビリテーション」中央法規

参考図書は随時授業で紹介します

科目名	精神保健福祉論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	子ども家庭福祉		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、NPOなど)について理解する。
- 2 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。
- 3 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

内容

1	福祉サービスにおける組織・経営
2	福祉サービスと制度
3	福祉サービスに関わる組織や団体 1 法人とは
4	福祉サービスに関わる組織や団体 2 社会福祉法人
5	福祉サービスに関わる組織や団体 2 社会福祉法人
6	福祉サービスに関わる組織や団体 3 NPO法人等その他の法人
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 1
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 2
9	福祉サービスの管理運営の方法 1 サービス管理
10	福祉サービスの管理運営の方法 2 人事管理
11	福祉サービスの管理運営の方法 3 労務管理
12	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
13	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
14	福祉サービスの管理運営の方法 5 情報管理
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし合計60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、主に社会保障の全体(基本)を学ぶものである。社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保障の意義・目的・機能、社会保障の歴史(国内及び諸外国の動向)、負担と給付なあり方、社会保障制度改革の意味や方向性といった事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 現代社会における社会保障制度の課題(少子高齢化と社会保障の関係を含む)について理解することができる。 社会保障の概念や対象及びその理念等について、その発達過程を含めて理解することができる。 社会保障制度の体系と概要について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

回数

- 1 人口動態の変化、少子高齢化
- 2 労働環境の変化(男女共同参画、ワークライフバランス等を含む)
- 3 社会保障の概念と範囲
- 4 社会保障の役割と意義
- 5 社会保障の理念
- 6 社会保障の対象
- 7 社会保障制度の発達(諸外国)
- 8 社会保障制度の発達(日本)
- 9 社会保障の財源
- 10 社会保障給付費
- 11 国民負担率
- 12 社会保険と社会扶助の関係
- 13 社会保険の概念と範囲
- 14 社会扶助の概念と範囲
- 15 授業全体の総まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【使用テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス 第2版』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	社会保障論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要となる科目で、主に社会保険制度の全体と個別内容を学ぶものである。社会保障論 を学んだ上での授業展開内容であり、社会福祉士指定科目でもある。

講義では、社会保険の意味・特色・体系、年金保険、医療保険、雇用保険、労働者災害補償保険、介護保険の制度的特徴とその問題点を順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 社会保障(社会保険)制度の体系について理解することができる。
年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容について理解することができる。 公的保険制度と民間保険制度の関係について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

取数

- 1 社会保障(社会保険)制度の体系
- 2 年金保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 3 医療保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 4 介護保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 5 労災保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 6 雇用保険制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 7 社会福祉制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 8 生活保護制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 9 家族手当制度の概要(制度の目的、対象、給付内容、財源構成等)
- 10 年金保険制度の具体的内容(国民年金、厚生年金、各種共済組合の年金)
- 11 医療保険制度の具体的内容(国民健康保険、健康保険、各種共済組合の医療保険)
- 12 公的施策と民間保険制度の現状(民間の年金保険・医療保険・介護保険等)
- 13 諸外国における社会保障制度の概要(北欧、西欧)
- 14 諸外国における社会保障制度の概要(アメリカ)
- 15 授業の総まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】阿部裕二編『社会保障 - 社会保障制度 社会保障サービス』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書については、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 1
3	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 2
4	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 3
5	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 4
6	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 1
7	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 2
8	現場体験学習及び見学学習
9	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
10	個人情報保護と守秘義務の理解
11	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
13	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 1
14	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 2
15	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 3

評価

レポート、実習計画作成等について総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学科作成によるマニュアル

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 選必, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 1
3	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 2
4	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 3
5	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 4
6	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 1
7	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 2
8	現場体験学習及び見学学習
9	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
10	個人情報保護と守秘義務の理解
11	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
13	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 1
14	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 2
15	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 3

評価

レポート、実習計画作成等について総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学科作成によるマニュアル

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
3	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
4	現場体験学習及び見学学習
5	相談援助に係る知識と技術に関する理解
6	個人情報保護と守秘義務の理解
7	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
8	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
9	巡回指導
10	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 1
11	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 2
12	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 3
13	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 4
14	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 5
15	実習の全体的総括

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学科作成によるマニュアル

科目名	社会福祉援助技術現場実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
3	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
4	現場体験学習及び見学学習
5	相談援助に係る知識と技術に関する理解
6	個人情報保護と守秘義務の理解
7	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
8	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
9	巡回指導
10	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 1
11	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 2
12	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 3
13	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 4
14	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 5
15	実習の全体的総括

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学科作成によるマニュアル

科目名	社会福祉援助技術現場実習指導		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 社会福祉現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉に係る知識、技術を具体的、实际的に理解する。
- 3 社会福祉専門職としての資質、技能、倫理等について総合的対応能力を習得する。

内容

- 1 オリエンテーションにより実習概要、意義を理解する。
- 2 視聴覚学習、従事者の講義から実習先、利用者、専門職の立場、倫理等について事前に学習する。
- 3 実習中は巡回指導を行う。
- 4 実習後は事後指導とともに実習の評価全体総括会により実習の深化を図る。

評価

事前学習、実習評価、事後指導等総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

学科作成のマニュアルを使用

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	社会福祉援助技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	10クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	福祉行政論		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	福祉住環境演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	衣生活支援演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	食生活支援演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	福祉情報論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ケア論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	福祉情報演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究等で必要となる情報リテラシー及び質問紙調査法の習得を目的とする。主に質問紙調査の作成方法及び結果の集計で用いる表計算ソフト(Excel)や統計ソフト(S P S S)の活用を、演習形式で学習していく。社会調査にむけた質問紙の基本を理解し、作成することができる。記述統計を基礎とした集計を表計算ソフトや統計ソフトを使用することができるようになる。

内容

1	オリエンテーション エクセル基礎
2	社会調査の基礎
3	質問紙調査票作成の基礎
4	統計基礎：尺度水準
5	統計基礎：分散、標準偏差、標準得点
6	相関係数
7	クロス集計、カイ2乗検定
8	t検定
9	分散分析
10	模擬調査票の作成と集計：ローデータ作成
11	模擬調査票の集計：記述統計
12	模擬調査票の集計と分析：相関係数
13	模擬調査票の集計と分析：クロス集計、カイ2乗検定
14	模擬調査票の集計と分析：t検定
15	授業のまとめ

評価

授業中提示した課題40点、最終レポート課題60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

参考図書

小野寺孝義・菱村豊『文科系学生のための新統計学』ナカニシヤ出版 2005

他は授業中に指示する。

科目名	死生学		
担当教員名	小田桐 正毅		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

「死生学」は「福祉」と何故関連するのか。「死生学」はまた、何故、「ライフやからだ」と関連するのか。本講義は上記二点に集約される諸問題を検討することから、日常生活における「生き生きとしたライフやからだ」とはどのようなものであるのかを明らかにして、「日常生活における死生学」の諸相を開示しようとすることに焦点がある。将来、保健・医療・看護・福祉・介護の領域で仕事をしたいと考えている人、さらには多様な人間関係をよく考えてみたいと思っている人の基礎的な学習になって欲しいと念願している。

内容

1	本講義の視座と目的
2	「ヒトの生死」と「人の死生」
3	「人生観」「生死観」「死生観」
4	「生と死」に対する医学的判断と法的規定
5	「生と死」に対する多様な見解
6	「生命活動」と「地球システム」
7	「生命活動」の在り様
8	「生命活動」の発現モデル
9	「生命活動」と「からだ」
10	「生命活動」と「人間」(ジンカン・ニンゲン)
11	「肉体的生命」と「身体的生命」
12	「からだの変様」としての「健康と病気」
13	「保健・医療・看護・福祉・介護」と「死生学」
14	「ライフチャンス」と「死生学」
15	「日常生活における死生学」の公理的命題

評価

レポート(最終講義日に提出、課題は提出日の一ヶ月前に公表する)。

評価方法の基準は、(1)講義内容を踏まえること、(2)順序立てて論じること、(3)自分の考え・見解を明記することであり、評価点配分は(3)が60%を占める。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】プリント使用。

【推薦書】(1)フィリップ・アリス『図説死の文化史』(福井憲彦訳、日本エディタースクール出版部)

(2)NHKスペシャル取材班&佐々木とく子、『ひとり誰にも看取られず』(阪急コミュニケーションズ)。

(3)週刊朝日編、『ひと、死に出あう』(朝日新書642)

その他、推薦書、参考図書等は、毎回の講義で適宜紹介する。

科目名	国際福祉論		
担当教員名	岡田 徹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

<授業目標>

社会福祉はこれまで国家・国民社会を前提にして生成展開されてきた。ここでは、この前提をいったん取り外し、「地球の見地に立った人間福祉」を考える。

<科目の概要>

地球世紀(Global century)と呼ばれる21世紀を生きる私たちにとって重要なキーワードはこの科目にある「福祉」と「国際化」である。ここでは社会福祉の中で最も創発的な領域である国際福祉の理論と実践を取り上げる。先進国型の「福祉」と途上国型の「開発」を包摂する概念として「人間福祉」を提起する。

内容

授業の進め方：毎回、講義レジュメを配布する。映像教材を用いる。毎授業時に小レポートを課す。

年間計画

1. なぜ今「国際福祉」か(意義)
2. 国際福祉とは何か(定義)
3. 国際福祉の生成展開過程(歴史)
4. 国際福祉問題1(難民問題)
5. 同上2(HIV・エイズ問題)
6. 同上3(在日外国人問題)
7. 同上4(南北問題)
8. 同上5(バングラデシュの貧困問題)
9. 国際福祉の存立根拠(脱主権国家化、人間福祉グローバル・ミニマム、地球市民社会)
10. 国際福祉の理論課題1(開発と福祉の包摂)
11. 国際福祉の理論課題2(開発とSWの統合)
12. 国際福祉の実践課題1(バングラデシュの農村および都市開発)
13. 国際福祉の実践課題2(フランスの家族政策)
14. 国際福祉論から見えてくる日本社会のかたち
15. まとめ

評価

ペーパーテスト(40点)、毎授業時のリアクション・レポート(30点)、平常点(30点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】岡田徹他編 『コミュニティ福祉学入門』 有斐閣 2005年 2300円+税

【参考図書】仲村優一編 『国際社会福祉』第12巻

岡田徹著 『国際社会福祉の歴史的動向』

科目名	福祉機器論		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業では、福祉用具全般の取り扱い方と介護技術について知識と技術の双方を深めるものである。福祉用具にはいわゆる自助具から義肢・装具まで非常に幅広いものとなっている。特に身体介助で使用する福祉用具に関する知識と使用方法を教授する。

授業は演習形式で行い、場所は介護実習室を利用する。福祉用具に関する知識は講義で行い、使用方法については実際に演習を行う。演習に際しては、学生を5名×8グループに分けて行う。技術の習得を目的とした授業であるから、知識と技術の双方を幅広く習得することが重要である。

- ・身体介護に使用する福祉用具を理解する
- ・自助具の使用法と介護技術の関連を理解する
- ・補装具・杖などの使用法と介護技術の関連を理解する
- ・トランスファーに使用する機器に関する知識と操作ができる

内容

1	オリエンテーション
2	福祉用具に関する法的な規定(1)介護保険法と福祉用具の歴史と種類について
3	福祉用具に関する法的な規定(2)身体障害者福祉法と等福祉用具の歴史と種類について
4	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・ベッド周辺
5	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・移動
6	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・排泄
7	日常生活動作を補助する用具と使用方法 ・着替え、身だしなみ
8	トランスファーを補助する用具と使用方法 さまざまなリフター
9	移動を補助する用具と使用方法 さまざまな車いす
10	移動を補助する用具と使用方法 杖・シルバーカー等
11	会話を補助する用具と使用方法 コミュニケーションツール
12	廃用症候群を予防する用具と使用方法 褥瘡の予防
13	廃用症候群を予防する用具と使用方法 拘縮・変形の予防
14	福祉用具の動向と課題
15	まとめ

評価

中間試験(資料等持ち込み可)、定期試験の結果(40点×2回)、レポート(10点×2回)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

社団法人シルバーサービス振興会『五訂福祉用具専門相談員研修用テキスト』中央法規, 2010年。

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名	布施 晴美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：

人間福祉学科専門科目の社会福祉基礎・展開科目に位置づけられている。

科目の概要：

リハビリテーションの基盤となる理念は、人権の保障であり、心身に障がいのある人々が残存能力を發揮できる状態にし、潤いのある豊かな生活を実現することである。リハビリテーションの理念、定義、目的、範囲、対象などリハビリテーションに関する基礎的事項について学習し、ノーマライゼーションの原理やQOLに視点をおき、リハビリテーションを通して機能回復を図るばかりではなく、人間らしく生きる権利の回復も図ることについて理解を深めることを目的とした講義を展開する。心理面におけるリハビリテーションについても触れる。

学修目標：

1. リハビリテーションの理念が理解できる。
2. 障がいの受容プロセスが理解できる。
3. ライフサイクルにおける各期のリハビリテーションの意義とQOLが理解できる。
4. 心理的な側面でのリハビリテーションの役割が理解できる。
5. 学生の自分立場からリハビリテーションについて果たせるものが何であるのか説明できる。

内容

1	リハビリテーションの理念
2	リハビリテーションの目的と対象
3	リハビリテーションの組織
4	障がいの受容過程とQOL
5	死別とグリーフワーク
6	ライフサイクルとリハビリテーション
7	子どものリハビリテーション 心身障がい児の基礎知識
8	子どものリハビリテーション 脳性麻痺
9	子どものリハビリテーション 広汎性発達障害と学習障害
10	成人期・老年期の人のリハビリテーション 脳血管障害
11	成人期・老年期の人のリハビリテーション 寝たきりと廃用症候群
12	成人期・老年期の人のリハビリテーション 認知症
13	施設におけるリハビリテーション
14	地域におけるリハビリテーション
15	リハビリテーションのまとめ

評価

授業への参加状況（10点）、レポート（20点）、筆記試験（70点）により総合的に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】硯川眞旬・橋本隆・大川裕行 編 『学びやすいリハビリテーション論』第2版 金芳堂

【推薦書】竹内孝仁編著 『リハビリテーション概論』 建帛社 494.79/T

佐々木日出男・津曲裕次監 『リハビリテーションと看護 その人らしく生きるには』 中央法規 492.9/R

科目名	リハビリテーション論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ジェンダーと福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

少子高齢社会、人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差(ジェンダー)が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

内容

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者(児)の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

授業の関する意欲・関心および意見の発表・討議への参加態度(20点)、期末レポート(80点)とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

杉本貴代栄『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書 369/S

科目名	ユニバーサルデザイン論		
担当教員名	角田 真二		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 日常の道具の使いやすさを対象にする福祉機器論よりも、対象を情報機器に分野を絞った科目になる。また、心理学では人間を対象にするが、ユニバーサルデザインでは、道具と人間の両方を視野に入れる点が、心理学と異なる。

科目の概要 情報社会が発展すればするほど、高齢者や障害者が取り残されてしまう、デジタルデバイドと言われる現象が問題になってくる。それゆえに、情報弱者となりやすいユーザのために、情報環境を整備する必要がある。本科目では、特にマニュアルを取り上げ、有効なマニュアルの条件について考察したい。

学修目標 わかりやすく、読んでみたくなる、具体的なマニュアルを作成したい。実際に作成する過程で、わかりやすい表現をすることが難しいことを理解してほしい。

内容

1	オリエンテーション
2	人間の心理過程と情報機器の情報処理(1) 情報の部分性
3	人間の心理過程と情報機器の情報処理(2) 言語
4	人間の心理過程と情報機器の情報処理(3) 記憶
5	人間の心理過程と情報機器の情報処理(4) 情報検索
6	人間の心理過程と情報機器の情報処理(5) 視覚
7	人間の心理過程と情報機器の情報処理(6) 聴覚
8	人間の心理過程と情報機器の情報処理(7) 触覚
9	情報機器を使うことの難しさ(1) ヒューマンエラー
10	情報機器を使うことの難しさ(2) ユーザが自分の責任にしがちである現状
11	情報機器を使うことの難しさ(3) メニュー、アイコン、専門用語
12	情報機器を使うことの難しさ(4) 学習の停滞
13	情報機器を使うことの難しさ(5) プロダクションパラドックス
14	マウスやキーボードの使い方を説明する、実際のマニュアル作成をする
15	まとめ

評価

毎回提出してもらってレポート、150点満点(15回X10点満点)で、90点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

プリントを配布する

科目名	ボランティア論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	NPO論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

学科専門科目として、現代社会におけるNGOやNPOの活動について学ぶ。

私たちは、社会の中で色々な活動をする。学生として勉強する。生活者として働く。選挙の時には、有権者として投票する。特定の団体のメンバーとして、他のメンバーと共通の目的のために活動することもある。そんな様々な活動の中で、最近、社会の一員(市民)としての行動に関心が集まっている。そのように、人々が組織を作って社会のために活動する団体が、非政府団体(NGO)や非営利団体(NPO)と呼ばれるものだ。この授業では、人々が市民として新たに行動を起こす理由や目的、結成した団体の特徴、社会での活動の意義、政府や他の社会組織との関係、さらには、国際社会での協力関係や役割など、NGO やNPO の活動について、多角的に検証する。

NGOやNPOの活動の現状を理解し、社会における市民の役割を考える。

内容

講義のテーマは以下の通り。

1. 市民社会における社会運動:近代史
2. 市民社会における社会運動:現代史
3. 社会運動の組織化
4. NGO・NPOの誕生
5. 活動の動機:どうして活動を始めるのか
6. 活動の種類・目的:何をを目指すのか
7. 活動内容:何をするのか
8. 活動の拡大:誰と協力したのか
9. 活動の成果:何を達成したのか
10. 活動の影響(1):人々の意識
11. 活動の影響(2):地域社会
12. 活動の影響(3):経済
13. 活動の影響(4):国際社会
14. 市民社会の発展
15. まとめ

評価

レポート(45%)、試験(55%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大畑裕嗣 他 『社会運動の社会学』 有斐閣選書、2004 年

【推薦書】目加田説子 『行動する市民が世界を変えた』 毎日新聞社、2009年

【参考図書】長谷川公一 編 『講座環境社会学・環境運動と政策のダイナミズム』 有斐閣、2001 年

科目名	レクリエーション論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	地域と生活		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	人間福祉特論 A		
担当教員名	宮城 道子、栗原 直樹、佐藤 陽、安岡 芙美子 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

3年次までの学びの成果にもとづき、概念や専門用語等の整理とともに、社会福祉の体系的理解を深める。また、最新の社会福祉の動向や法改正、その背景となる社会環境の変化を的確に把握できるよう、認識力の形成に努める。社会福祉士国家試験を一つの目標として福祉専門職に求められる資質を得ることをめざす。

内容

- 1.福祉専門職と資格制度
- 2.社会福祉の概念・理論・専門用語の体系的理解
- 3.社会福祉の各領域ごとの法制度改正およびその適用の現状
- 4.政治・経済・社会環境の変化による新たな生活問題
- 5.社会福祉士国家試験受験に資する学習方法の獲得

評価

受講態度および授業中に実施されるミニテスト・小課題(50点)、最終試験(50点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書は適宜紹介する。適宜プリントを配布する。

科目名	人間福祉特論 B		
担当教員名	斉川 富夫、大山 博幸、宮内 寿彦、新井 幸恵 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

前期の「人間福祉特論 A」をさらに展開し、概念や専門用語の整理とともに関連領域へも視野を広げて、社会福祉の全般的理解を深める。また、最新の社会福祉の動向や法改正、その背景となる社会環境の変化を的確に把握できるよう、認識力の形成に努める。これからの社会を担う福祉専門職としての意欲・知識・資質を確かなものとする。

内容

1. 福祉専門職と資格制度、各専門職との連携
2. 社会福祉関連領域の概念・理論・専門用語の体系的理解
3. 社会福祉関連領域の法制度改正およびその適用の現状
4. 政治・経済・社会環境の変化による新たな課題とアプローチ
5. 福祉専門職としての自己啓発

評価

授業態度および授業中に実施されるミニテスト・小課題(50点)、最終試験(50点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書は適宜紹介する。適宜プリントを配布する。

科目名	福祉学文献講読		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

大上段に振りかぶって福祉の専門書を読むというはしない。

あえて哲学者(鷲田清一)が一般読者に向けて書いた本を教科書にする。

鷲田の文章には、人の傷つきやすさを身近にうけとめながら、ものを考えてきた人の持ち味がある。

(テキストの解説者である苅部 直から)

人間や社会の今日的問題について考察することが目的であるが、同時に文献(活字)を読んで思索することの意義と楽しさも知ってほしい。

内容

1	「哲学」すること
2	「普通」とはどういうことか
3	仕事と遊び
4	不安定な社会
5	リアルの変容
6	身体について考える
7	今日の私的空間
8	私と所有
9	今日の都市
10	ホスピタリティー支え合いの形
11	音楽と音楽療法
12	芸術の価値
13	病いと死
14	死と生
15	まとめ

評価

レポート提出など授業態度(30%)と最終試験(70%)によって評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

鷲田清一『新編 普通をだれも教えてくれない』筑摩書房を教科書とする。

関連の文献については、適宜紹介する。

科目名	福祉コミュニケーション		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	乳幼児・児童の心理学		
担当教員名	石田 有理		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

生涯発達領域 専門科目

科目の概要

乳幼児期は、人生の基礎となる大切な時期であり、さまざまな側面において急速な変化がみられる。身体・認知・情緒などの諸側面から発達の過程を学び、乳幼児に対する理解を深め、臨床や実践活動のための基礎知識を身につけることを目標とする。また、生まれたばかりの状態から「人になっていく」過程を知ることによって、乳幼児期が人の一生のなかでどのような意味をもつのか考えるきっかけとなることを目指す。講義形式の授業とするが、適宜映像視聴やディスカッションなどを取り入れる予定。

学修目標

- ・乳幼児期の身体発達について説明できる
- ・乳幼児期の知覚と認知の発達について説明できる
- ・乳幼児と養育者の関係の発達について説明できる
- ・幼児期の仲間関係や社会性の発達について説明できる

内容

1	乳幼児期とは
2	新生児の能力
3	身体・運動の発達
4	認知の発達
5	個性の発生
6	「自己」への気づき
7	愛着と親子関係
8	愛着と親子関係
9	他者との関係の発達
10	情緒と感情の発達
11	言語とコミュニケーションの発達
12	遊びと想像性
13	発達障害・発達診断
14	年齢別の発達の様相
15	まとめ

評価

平常点30点、授業時のレポート20点、期末試験50点。合格点60点。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

[教科書] 繁多進「乳幼児発達心理学」福村出版

[推薦書] 柏木恵子他「新版発達心理学への招待」ミネルヴァ書房

科目名	障害者の心理学		
担当教員名	柳本 雄次		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

障害は、障害のある個人ばかりでなく、家族や周囲の人々にとっても生涯にわたり心理的に多大な影響を及ぼします。したがって、その心理を理解するには、発達心理学、学習心理学、臨床心理学等の先行研究の知見を踏まえつつ、多面的にとらえる必要があります。障害者の心理学を学ぶことは、深い人間理解に大きく寄与します。

本講義では、障害者に共通する主要な心理的問題に着目して、その原因と支援について論ずること、障害種ごとに独自の心理的問題について理解するうえで必要な事項を述べることに重点を置くことにします。

学修目標は、次の3点です。 障害の定義・診断法を学んだうえで、障害に起因する心理的問題への対応を理解すること。 身体的障害、知的障害、発達障害だけでなく疾病、中途障害などに関心を広げ理解すること、 障害者に適用される検査・調査法の基礎を理解すること。

内容

1	障害とは(定義・種類)
2	障害と心理的問題
3	障害者の性格行動の特性と支援
4	障害児の学習困難と支援
5	障害者の環境的關係と支援
6	視覚障害者・聴覚障害者の心理的的特性と支援
7	知的障害者の心理的的特性と支援
8	肢体不自由者・身体虚弱者の心理的的特性と支援
9	重度重複障害者・難病者の心理的的特性と支援
10	発達障害者の心理的的特性と支援
11	中途障害者の心理的的特性と支援
12	障害者の心理学的研究の必要性
13	心理学的研究の方法(心理検査法)
14	心理学的研究の方法(調査・観察法)
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30点)と最終週の試験(50点)に、通常の授業態度(20点)を加味して評価を行います。合格点を60点とし、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しません。

【参考図書】中司利一『障害者心理 その理解と研究法』ミネルヴァ書房、長崎勤・前川久男『障害

理解のための心理学』明石書店

【その他】必要に応じて随時授業で紹介します。

科目名	カウセリング論		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

カール・ロジャーズは、カウセリングを「個人との継続的、直接的接触で、その個人を援助して行動・態度の変容を図る」とことと定義している。このカウセリングに関連するキーワードとして、「コミュニケーション」「相談援助」「自己成長」などがあるが、授業を通してこれらの学びを実践的に深めていく。したがって、一方通行の授業ではなく、「考える」「発表する」「書く」などの作業を通して、カウセリングの基礎基本を理解していく。

学修目標は、カウセリングの理論についての基礎的知識を学び、さらにカウセリングの実際についての基本的理解を深めることにある。

内容

1	はじめに
2	カウセリングとは
3	カウセリングの方法原則(1)
4	カウセリングの方法原則(2)
5	カウセリングのすすめ方(1)
6	カウセリングのすすめ方(2)
7	ラポールと共感的理解の図り方
8	クライアント(来談者)理解の深化の方法(1)
9	クライアント(来談者)理解の深化の方法(2)
10	クライアント(来談者)理解の深化の方法(3)
11	働きかけの技術
12	主なカウセリング技法の概要(1)
13	主なカウセリング技法の概要(2)
14	主なカウセリング技法の概要(3)
15	まとめ(カウンセラーになるための心得と訓練について)

評価

授業中の課題への解答(30%)、試験(70%)。2/3以上出席することで評価を受けることができる。合格点(60点)に達しなかった場合は、再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

福山清蔵 著 『入門カウセリングワークブック』 日精研心理臨床センター

科目名	中高年の心理学		
担当教員名	川元 克秀		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

1. 科目の性格

本科目は、現在の我が国における、中高年期の人々が直面している諸課題について、その問題を自らに引き寄せて、実感を持った「想いを馳せる」作業を行うように設計されている。特に、女子学生が受講することを前提に、女性であるからこそ、これから来る自らの中年期と高齢期の生活を、どのように過ごし得るのかに関し、将来的に有用な手掛かりになることを目指して開講する。

2. 科目の概要

現在の我が国には、さまざまな不利益を被りながら生活している人々が存在する。その不利益の原因は、経済的なものであったり、何らかの障害を心身に持つことであったり、特定の視点からみた場合に少数派であることであったりと多様である。本科目は、このような前提にたち、中年期と高齢期に、様々に直面する課題について、具体的な題材を手掛かりに、自らの在り方を内省する作業を通し、その現実への対処方策を、それぞれの未来に向けて獲得することを目的とする。

3. 学修目標

本科目は、1) 中年期と高齢期の特徴的な変化が社会的な不利益に結びつく構図とはどのようなものであるのか？、2) そのような不利益を被りながら生活する中高年者本人はどのような想いをもちながら生活しているのか？、3) 社会的な不利益を被りがちな中高年者に対して我々が専門家としてまた市民として成し得ることは何なのか？、の3点の獲得を、学修の目標とする。

内容

我が国で起きているさまざまな「中高年者に関連した社会問題」を題材として、その内容に対する自らの有り様について考えることから、学習をスタートする。学習は、まず、題材に関するグループワークの形式により行う。次に、グループワークにより得た「気づき」を前提に、関連した基礎知識・専門知識を講義形式により学習する。なお、各開講回別に取り上げる題材の内容は以下の通りとする。

第1回 ガイダンスと「中高年期の生活の概要」：我が国の中高年期の生活の概要

第2回 「幼児虐待・児童虐待と自分」：児童虐待に苦しむ加害者の痛み

第3回 「幼少期に発病することと支え合う想い」：小児病棟における子ども同士のかかわりあい

第4回 「児童労働と自分」：途上国に於ける児童労働の現実と家族内での親に対する役割期待

第5回 「優性思想と自分」：優性思想とハンセン病回復者に対する断種手術の現実

第6回 「パートナーシップと自分」：ハンセン病回復者の家族へのあり方

第7回 「貧困と教育と自分」：貧困により生ずる教育機会の格差

第8回 「家族との関係と役割期待」：「理想の家族幻想」に苦しむ日常

第9回 「障害児を出産することと自分」：障害を持つ子どもを出産した母親の嘆き

第10回 「里親制度と血縁の意味と自分」：自動的に血縁対象を愛するようになるものなのか？

第11回 「女性に対する差別と自分」：インドの中流階級における「結婚持参金殺人」の現実

第12回 「我が国の老老介護の現実と自分」：我が国の介護現場の現実

第13回 「代理出産ビジネスの現実と新たな生命を誕生させることの意味」：米国における代理出産

第14回 「戦争と自分」：現代世界の紛争・内戦・戦争の実質的な担い手の「少年兵」

第15回 「暴力の連鎖と一人の市民としての自分」：ガンジーの「非暴力・不服従」運動

評価

成績は、平常点と期末レポートにより評価する。平常点とは、講義中の『グループワークへの取り組み姿勢』と、それを前提とした毎回の小レポートの内容を指す。併せて、講義最終回に、期末レポートとして、小論文の作成を求める。

成績評価の基準は、合計100点満点を、『平常点(グループ学習への取り組み状況や毎回の小レポート)』が70点、『期末レポート』が30点の構成にて配点し、それを基準として評価を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は使用しない。なお必須ではないが、推薦図書として、以下の雑誌に事前に目を通しておくことが望まれる。

「Days Japan 2008年6月号（特集：処分されるペットたち）」

「Days Japan 2008年9月号（特集：結婚させられる少女たち）」

「Days Japan 2009年5月号（シオラレオネ出産の悲劇ほか）」

「Days Japan 2009年10月号（特集：カンボジア地雷探知犬が救う命）」

科目名	家族心理学		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4人時の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4人時の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Hクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4人時の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4年次の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4人時の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	演習		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：大学における人間福祉の学びの総まとめである卒業研究(4年次)の準備段階として、自らの興味と関心によって自主的に設定したテーマについて、担当教員の指導助言を受けながら探求する。本科目は人間福祉専門科目にとどまらず、全科目と関連する。

科目概要：前期では自らのテーマを絞り込むために自由なディスカッションを経て自己の関心や興味、経験を普遍化することが求められる。

また、ゼミとは成長を共にする仲間との学びあいであり、互いのテーマや関心がどのように掘り下げられてゆくのか見つけてゆく。

学修目標：1) 自己の研究テーマが選定できる。

2) テーマに接近するための道筋がわかる。

3) 仲間の研究テーマや視点にも関心を持ち、相互に援助し合える関係を築ける。

内容

グループ形式のゼミあるいは個別の指導を通じて

研究テーマを見出し焦点化する

研究テーマにふさわしい研究方法を探求し、考察を進め、必要によっては実践活動に取り組む

その成果を持って4人時の卒業研究につなげる

評価

日頃の学習活動、レポート内容などを総合的に判断して行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

各教員がゼミを通じて参考資料の紹介や資料の配布を行う。

科目名	卒業研究		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査(調査票作成、フィールドワークなど)の実施

構成の明示(あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など)

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査(調査票作成、フィールドワークなど)の実施

構成の明示(あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など)

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査(調査票作成、フィールドワークなど)の実施

構成の明示(あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など)

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査(調査票作成、フィールドワークなど)の実施

構成の明示(あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など)

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Fクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	0Gクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査(調査票作成、フィールドワークなど)の実施

構成の明示(あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など)

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Jクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Kクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	卒業研究		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	0Lクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

卒業研究作成のための指導。 テーマの設定。 先行研究の整理。 研究テーマに関連する学習。 研究方法・手続きについての理解。 グループ及び個別指導における卒業研究指導の実施。 卒業研究結果の報告と評価 卒業研究のテーマを設定できる。 研究目的達成のための方法論を理解しその手続きを明示できる。 卒業研究を作成でき、その課題について明確に述べることができる。 卒業研究結果を報告することができる。

内容

グループ形式のゼミ及び個別指導により実施する。

研究テーマの設定

研究テーマに関連する学習

先行研究の整理

研究方法・手続きの理解

研究テーマに関連する文献の収集及び調査（調査票作成、フィールドワークなど）の実施

構成の明示（あらまし、目的、方法、内容、結果及び考察、今後の課題など）

卒業研究の作成

結果の報告と評価

評価

提出された卒業研究結果を対象に評価し、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業中に指示。

科目名	家政学概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	ソーシャルワーク論		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目の1つ「相談援助の理論と方法」である。「福祉課題を抱えた者からの相談への対応や、これを受けて総合的かつ包括的にサービスを提供することの必要性、その在り方等に係る専門的知識」「福祉課題を抱えた者からの相談に応じ、利用者の自立支援の観点から地域において適切なサービスの選択を支援する技術」「サービス提供者間のネットワークの形成を図る技術」「専門職としての高い自覚と倫理の確立や利用者本位の立場に立った活動の実践」の知識及び技術が身に付けられるようにすることが求められている。「ソーシャルワーク論 から」を踏まえて本科目を理解する必要があり、「相談援助演習」とも関連性がある。学修目標は、相談援助における社会資源の活用・調整・開発やネットワーキングについて理解する。また集団を活用した相談援助やスーパービジョン、記録について理解する。

内容

1	ソーシャルワークについて
2	アウトリーチの意義と目的
3	アウトリーチの方法と留意点
4	社会資源の活用・調整・開発の意義と目的
5	社会資源の活用・調整・開発の方法と留意点
6	ソーシャルアクションについて
7	コーディネーションについて
8	ネットワーキングの意義と目的
9	ネットワーキングの方法
10	地域福祉総合支援体制
11	グループを活用した相談援助
12	自助グループを活用した相談援助
13	記録の意義・種類・活用について
14	記録の方法と実際
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30点)と、学修目標に基づく国家試験形式のペーパーテスト(60点)、通常の授業態度(10点)、三分の二以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書

新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法 中央法規出版株式会社

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉、介護需要(高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む。)について理解する。

高齢者福祉制度の発展過程について理解する。

相談援助活動において必要となる介護保険制度や高齢者の福祉・介護に係る他の法制度について理解する。

内容

高齢者の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉・介護需要(高齢者虐待や地域移行、就労の実態を含む)

高齢者福祉制度の発展過程

介護保険法

介護報酬

介護保険法における組織及び団体の役割と実際

介護保険法における専門職の役割と実際

介護保険法におけるネットワーキングと実際

地域包括支援センターの役割と実際

老人福祉法

高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律

高齢者、障害者の移動等の円滑化の促進に関する法律

高齢者の居住の安定確保に関する法律

評価

レポートで30点、試験で70点とする。

試験、レポートを合計し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規

科目名	高齢者に対する支援と介護保険制度		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 介護に関する制度とその運用の実態について理解する。
- 介護の概念や対象及びその理念等について理解する。
- 介護過程における介護の技法や介護予防の基本的考え方について理解する。
- 終末期ケアの在り方 (人間観や倫理を含む) について理解する。

内容

1 介護保険制度の内容と運営の実態について

- 高齢者介護の概要について
- 介護の概念や対象
 - 介護予防
 - 介護過程
 - 認知症ケア
 - 終末期ケア
 - 介護と住環境

評価

- レポートで30点、試験で70点とする。
- 試験、レポート、を合計し評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

教科書 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 中央法規

科目名	障害者福祉論		
担当教員名	丸山 晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に対応する科目であり国家試験受験資格取得に必要な科目である。

科目の概要

本科目では、(1)障害のある人の生活実態とこれを取り巻く社会情勢や福祉・介護需要(地域移行や就労の実態を含む)について理解する。(2)障害者福祉制度の発展過程について理解する。(3)相談援助活動において必要となる障害者自立支援法や障害のある人の福祉・介護にかかわる他の法制度について理解する。

学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について各自で調べ理解しておくことが求められる。そのうえで、以下の点について理解できているかを目標とする。

- (1) 障害のある人への福祉の歴史と理念について説明ができること
- (2) 障害のある人の生活実態について説明できること
- (3) 障害のある人への自立支援制度の概要とサービスについて説明できること
- (4) 障害のある人への専門職の関わりのポイントについて説明できること

内容

1	オリエンテーション、障害者福祉の視点
2	障害者福祉の歴史(欧米編)
3	障害者福祉の歴史(日本編)
4	障害者福祉の基本理念
5	障害者福祉の基本理念
6	障害の概念と障害者の実態
7	障害者福祉の法体系
8	障害者自立支援法の概要
9	障害者福祉サービス
10	障害者福祉サービスにおける給付の仕組み
11	障害者福祉サービス体系における課題
12	障害者の生活保障
13	障害者福祉にかかわる専門職
14	障害者の社会参加
15	障害者福祉の今後の展望、まとめ

評価

試験による評価（中間試験 15点、中間試験 15点、前期試験60点）

平常（授業態度等）評価 10点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】相澤譲治他『障害者福祉論』みらい

【推薦書】茨木尚子他『障害者総合福祉サービス法の展望』ミネルヴァ書房

ジョン・スウェイン他『イギリス障害学の理論と経験』明石書店

岡部耕典『ポスト障害者自立支援法の福祉政策』明石書店

【参考書】坂本洋一『図説よくわかる障害者自立支援法』中央法規

『障害者自立支援法Q & A』中央法規

科目名	就労支援サービス論		
担当教員名	丸山 晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「就労支援サービス」に対応する科目であり国家試験受験資格取得に必要な科目である。

科目の概要

本科目では、次の内容について主にテキストと関係法令をもとに講義によって学習する。

- (1) 相談援助活動において必要となる就労支援制度について理解する。
- (2) 就労支援にかかわる組織、団体および専門職について理解する。
- (3) 就労支援分野と関連分野との連携について理解する。

学修目標

授業内容についてテキストを精読することと、索引に登場する用語について各自で調べ理解しておくことが求められる。

そのうえで、以下の点について理解できているかを目標とする。

- (1) 労働関係法令と近年の労働市場の変化について説明できること。
- (2) 障害のある人への就労支援サービスの概要について説明できること。
- (3) 低所得者への就労支援サービスの概要について説明できること。

内容

1	オリエンテーション、「働くこと」の意味
2	労働市場の変化
3	労働に関する法律
4	労働に関する公的保険制度
5	障害者の就労の現状
6	障害者と就労支援
7	障害者と就労支援
8	障害者と就労支援
9	低所得者の就労の現状
10	低所得者と就労支援
11	低所得者と就労支援
12	低所得者と就労支援
13	就労支援の流れと職業リハビリテーション
14	就労支援ネットワーク
15	就労支援サービスの今後の展望、まとめ

評価

試験による評価（中間試験 15点、中間試験 15点、前期試験60点）

平常（授業態度等）評価 10点

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】社会福祉士養成講座編集委員会『就労支援サービス』中央法規

【推薦書】山崎順子他『地域でささえる障害者の就労支援』中央法規

道中隆『生活保護と日本型ワーキングプア』ミネルヴァ書房

日本社会福祉士会『ソーシャルワーク視点に基づく就労支援実践ハンドブック』中央法規

科目名	医学一般		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	福祉行財政と福祉計画		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士国家試験受験資格の取得に必要な科目で、社会福祉政策の中において特に福祉行財政と福祉計画の全体像を学ぶものである。社会福祉概論・ を学んだ上での授業展開内容であり、また社会保障論・ 、地域福祉の理論と方法、高齢者に対する支援と介護保険制度、障害者に対する支援と障害者自立支援制度、児童・家庭福祉論、保健医療サービス論といった科目に関連がある。なお、本科目は社会福祉士指定科目でもある。

講義では、福祉行政の意味・役割、国と地方の関係性(地方分権)、福祉行政機関、専門職配置、国及び地方における福祉財政、様々な福祉計画(国・都道府県・市町村)の概要、福祉計画の策定・実施・評価の過程といった事からについて順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。福祉行財政の実施体制(国・都道府県・市町村の役割、国と地方の関係、財源、組織及び団体、専門職の役割を含む)について理解することができる。福祉行財政の実際について理解することができる。福祉計画の意義や目的、主体、方法、留意点について理解することができる。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

マ数

- 1 国の役割(法定受託事務と自治事務等)
- 2 都道府県の役割(福祉行政の広域的調整、事業者の指導監督等)
- 3 市町村の役割(サービスの実施主体、介護保険制度における保険者等)
- 4 国と地方の関係(地方分権の推進)
- 5 福祉の財源(国・地方の財源、保険料財源、民間の財源等)
- 6 福祉行政の組織及び団体の役割(福祉事務所、児童相談所、婦人相談所、身体障害者更生相談所、知的障害者更生相談所、地域包括支援センター等)
- 7 福祉行政における専門職の役割(福祉事務所の現業員、査察指導員、児童福祉司、身体障害者福祉司、知的障害者福祉司、その他)
- 8 福祉計画の意義と目的
- 9 福祉計画における住民参加の意義
- 10 福祉行財政と福祉計画の関係
- 11 福祉計画の主体
- 12 福祉計画の種類(地域福祉計画、老人保健福祉計画、介護保険事業計画、障害福祉計画、その他)
- 13 福祉計画の策定過程(問題分析と合意形成過程、その他)・策定方法・留意点・評価方法
- 14 福祉計画の実際
- 15 授業の総まとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合には、再レポートを提出してもらおう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【使用テキスト】池村正道編『福祉行財政と福祉計画 - 社会福祉行財政・福祉計画』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じて、授業で随時紹介する。

科目名	社会理論と社会システム		
担当教員名	斉川 富夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 社会をシステムとして捉える考え方を理解する。
- 特に、家族と地域についての理解を深める。
- 近代化の意味とその問題性についての理解に努める。
- 社会問題を社会的に捉える考え方を理解する。

内容

1	社会システムとは・・・
2	経済と社会システム
3	市場の問題と福祉国家
4	地域と集団
5	都市化と地域
6	家族の社会学 ー 家族の形態と機能
7	家族の社会学 ー 家族の変容
8	生活の理解
9	女性の生き方とキャリア形成
10	近代化と社会変動
11	高度産業化ー情報化と情報社会
12	近代化と合理化ーM・ウェーバーの社会学
13	システムと社会秩序
14	社会問題の理解
15	まとめ

評価

- ・ペーパーテストによって評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

『新・社会福祉士養成講座3 社会理論と社会システム (第2版)』中央法規をテキストにする。

科目名	保健医療サービス論		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

従来は病気と貧困の悪循環は当たり前のように見られた。国民皆保険となり、この状態は軽減されてはいるが、社会の高度化、複雑化や疾病構造の変化のなかで病気を原因とした生活困難に苦しむ国民は多い。また医療も治療だけでなく、広く健康増進やリハビリテーションも視野にいれた、幅の広い内容となっている。そこで保健・医療サービスの支え手としても医師ばかりでなく、多くの関連専門職の連携が必要となっている。この授業では将来ソーシャルワーカーになる学生に対して、病気・健康に関連した国民生活の実態とこれに対する医療・保健サービスの状況や方向性を理解させることを目的とし、主に次の2点の内容を学ぶ。

- 1、相談援助活動において必要となる医療保険制度(診療報酬に関する内容を含む。)や保健医療サービスについて理解する。
- 2、保健医療サービスにおける専門職の役割と実際、多職種協働について理解する。

内容

保健医療と法制度の歴史

医療保険制度の現状と課題 その1～その3

医療保険の「機能と歴史

日本の医療保険の特徴と問題

医療保険制度と医療保障

診療報酬 その1～その2

日本の診療報酬制度の特色

診療報酬単価と決定の仕組み

保険診療と自由診療、混合診療

歯科診療報酬制度とその課題

保健医療サービスの概要 その1～その3

健康日本21の背景

高齢者の保健医療対策

生活習慣病の予防と介護予防対策

保険医療専門分化と連携

保健医療サービスにおける専門職の役割と実際 その1～その2

各専門職の役割と機能分担

医師、歯科医師、薬剤師、保健師、看護師、助産師、理学療法士、作業療法、言語聴覚士、臨床心理士、医療ソーシャルワーカー等

保健医療サービス関係者との連携と実際

がん、慢性疾患、難病への対応と保健医療福祉

高齢者の主な疾患と保健医療福祉

地域における保健医療福祉の現状と課題

評価

授業態度および試験で評価します。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書 社会福祉士シリーズ17 『保健医療サービス』 弘文堂

科目名	権利擁護と成年後見制度		
担当教員名	田中 満枝		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護保険の制度と両輪の輪として制定された成年後見制度は契約時代における新たな権利擁護の制度として非常に重要な役割を担っている。

成年後見制度の概要(後見人等の役割を含む)について相談援助活動における権利擁護の視点から理解する。

成年後見人の権限や義務、活用の実際なども含め、成年後見制度の実際について理解する。

認知症や知的障害で日常生活への支援が必要な方や、虐待などの権利侵害にあった方々に対する権利擁護活動の実際について成年後見制度との関連も含めて理解する。

内容

1	権利擁護にかかわる相談援助の活動と法(日本国憲法・民法)
2	成年後見制度の全体像と基本的枠組み
3	法定後見制度における類型の理解(成年後見・保佐・補助)
4	任意後見制度について
5	後見申し立ての流れ
6	財産管理と身上監護
7	後見活動の実際1「後見人の権限・義務」
8	後見活動の実際2「事例から学ぶ」
9	権利擁護にかかわる組織(家庭裁判所・法務局・市町村等)
10	権利擁護にかかわる専門職の役割(弁護士・司法書士・社会福祉士)
11	権利擁護活動の実際
12	成年後見制度利用支援事業
13	日常生活支援事業
14	成年後見制度の最近の動向
15	まとめ

評価

筆記試験 70点 レポート30点 試験・レポートを合計し評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書:新・社会福祉士養成講座第19巻「権利擁護と成年後見制度 第2版」 中央法規

参考書:社会福祉士池田恵利子 いけだ後見支援ネット編「エピソードで学ぶ成年後見人-身上監護の実際と後見活動の視点-」民事法研究会

科目名	更生保護制度		
担当教員名	片居木 英人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉士指定科目である。主に、更生保護制度の全体像を学ぶものである。「犯罪と福祉」という重い課題であるが、社会的排除が端的に現れやすい人権問題領域であるだけに、「人権と社会正義」を掲げる社会福祉が果たすべき役割は大きい。

講義では、司法福祉、刑事司法、更生保護法制、その歴史的展開、機構、手続き、対象者、担い手、等の事がらを順次学んでいく。

学修目標は次の3点である。 司法福祉（修復的司法を含めて）・刑事司法・更生保護制度の全体的なつながりを理解することができる。 犯罪を行ってしまった人への社会復帰支援の意味とその重要性を理解することができる。 更生保護制度とその運用全般を理解することができる。

内容

1	刑事司法、更生保護とは
2	更生保護法とは
3	更生保護の歴史
4	更生保護の対象者と手続き - 非行少年
5	更生保護の対象者と手続き - 犯罪をした人
6	更生保護の具体的方法 - 仮釈放、保護観察等
7	更生保護の具体的方法 - 生活環境の調整、更生緊急保護等
8	更生保護制度の実施機構及び組織
9	更生保護制度の担い手
10	医療観察制度とは
11	他害行為を行った精神障害のある人の社会復帰支援の方法
12	高齢者・障害のある犯罪者の保護
13	就労支援の方法と課題
14	更生保護の今後の課題
15	全体のまとめ

評価

中間課題レポート30%、筆記試験70%とし、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合、再レポートを提出してもらう。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【テキスト】森 長秀編『社会福祉士シリーズ20 更生保護制度 - 司法福祉 - 』弘文堂

【推薦書】 推薦書及び参考図書は、必要に応じ、授業で随時紹介する。

科目名	心理学理論と心理的支援		
担当教員名	江川 玫成		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[ねらい]

- ・心理学理論による人の理解とその技法の基礎について理解する。
- ・人の成長・発達と心理の関係について理解する。
- ・日常生活と心の健康との関係について理解する。
- ・心理的支援の方法と実際について理解する。

[科目の概要]

人の心理学的理解、人の成長・発達と心理、日常生活と心の健康、心理的支援の方法と実際

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

社会福祉・介護福祉の専門職として必要な心理学理論と心理的支援方法について習得する。

内容

1. 人の心理学的理解(その1): その生理学的基礎、行動のメカニズム(欲求と動機づけ)
2. 人の心理学的理解(その2): 情動・情緒、学習のメカニズム(条件づけ)
3. 人の心理学的理解(その3): 学習のメカニズム(モデリング、洞察学習)、学習の法則
4. 人の心理学的理解(その4): 個人差の理解(人格・性格)
5. 人の心理学的理解(その5): 深層心理の理解
6. 人の心理学的理解(その6): 集団行動、社会的適応
7. 人の成長・発達と心理(その1): 発達段階とその心理的特質
8. 人の成長・発達と心理(その2): 各発達段階の課題(発達課題)
9. 日常生活と心の健康(その1): 心の健康と不健康、
10. 日常生活と心の健康(その2): 各種
11. 心理的支援の方法と実際(その1) 心理検査の概要
12. 心理的支援の方法と実際(その2) カウンセリングの基礎技法(傾聴の技術)
13. 心理的支援の方法と実際(その3) カウンセリングの基礎技法(情報提供・助言の技術)
14. 心理的支援の方法と実際(その4) 認知行動論的アプローチ
15. まとめ

授業はプリントを配布し、講義形式で行う。そして、授業中に質問を発して、それに対して挙手の形で答えるという質問応答の方法を取り入れていく。

また、毎回の授業で、その時間に学ぶべき事項の理解を深めるべく質問を発し、配布された用紙に解答して提出してもらう。なお、これが平常点の資料となる。

評価

平常点(30点) 筆記試験(70点) 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【推薦図書】江川? 成（編著）『カウンセリング入門』 北樹出版

国分康孝『カウンセリングの技法』 誠信書房

鹿取廣人・杉本敏夫（編）『心理学 第2版』 東京大学出版会

【参考図書】

推薦書・参考図書については、これ以外にも授業で提示する。

科目名	社会福祉施設経営論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 福祉サービスに係る組織や団体(社会福祉法人、医療法人、NPOなど)について理解する。
- 2 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解する。
- 3 福祉サービスの経営と管理運営について理解する。

内容

1	福祉サービスにおける組織・経営
2	福祉サービスと制度
3	福祉サービスに関わる組織や団体 1 法人とは
4	福祉サービスに関わる組織や団体 2 社会福祉法人
5	福祉サービスに関わる組織や団体 2 社会福祉法人
6	福祉サービスに関わる組織や団体 3 NPO等その他の法人
7	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 1
8	福祉サービスの組織と経営の基礎理論 2
9	福祉サービスの管理運営の方法 1 サービス管理
10	福祉サービスの管理運営の方法 2 人事管理
11	福祉サービスの管理運営の方法 3 労務管理
12	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
13	福祉サービスの管理運営の方法 4 会計と財務
14	福祉サービスの管理運営の方法 5 情報管理
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし合計60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

新・社会福祉士養成講座「福祉サービスの組織と経営」中央法規

科目名	家政学概論		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間としての生活を考えるうえで、生活の諸相である衣生活・食生活・住生活・家族と家庭生活などについて学ぶことは、よりよい人生を過ごすために大切である。特にこの科目では、高齢期の生活にも重点をおき、問題点や課題などを見いだし認識を深める。これらを通して、日常の生活を充実させていくための総合的な視点と思考力を養い、実践できるようにする。授業形態は、講義を中心とするが、視聴覚機器や標本などを用いて現実の生活を想起させ、興味・関心を深めながら進めていく。

学修目標は次の通りである。

家政学概論の基礎的な知識と理論が理解できたか。

家政学概論を学ぶ方法論が身についたか。

他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容

1	ガイダンス(科目の学び方とその視点)
2	家族と家庭生活
3	家事労働と介護労働 生活時間
4	生活設計 消費者教育
5	高齢者と家族関係
6	被服の起源と役割 被服材料と被服管理
7	人間形態の把握と既製服サイズシステム
8	高齢者と障害者の被服
9	住まいの役割と機能
10	生活行動と住まいのかたち 快適で安全な住まい
11	高齢者と障害者の住まい
12	食生活と健康 栄養素の働き
13	食品の安全性
14	高齢者の食生活
15	総括 理論の実践化にむけて

評価

平常点・課題40% 試験60% 2/3以上出席することで評価を受けられ、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する。

科目名	福祉住環境論		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

わが国の総人口は、2000年には約1億2千7百万人に達し、そのうちの約17%が65歳以上の高齢者である。今後、急速に少子高齢化が進展することはよく知られるところであるが、少子高齢化社会の到来は、年金、雇用、医療、保険等、生活のあらゆる場面での多くの問題を抱えている。このような変革の時代に高齢者や障害者が地域社会で自立した生活を継続できるように社会全体で支援することが重要となる。

高齢者や障害者が自立した生活をおくるために、その重要な課題のひとつに生活拠点としての住宅の問題がある。超高齢社会の到来を踏まえて、日本の住宅の抱える問題点を考え、住環境整備を進めるための基礎知識や基礎技術について理解を深めるものである。

但し、モデルの制作などを行うため、人数に制限あり。

内容

1	現代の住生活環境
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	快適な現代生活と家庭電化製品
4	バリアフリーとユニバーサルデザイン
5	安全・快適な住まい（屋外移動・屋内移動）
6	安全・快適な住まい（清掃・洗濯・調理）
7	安全・快適な住まい（起居・就寝）
8	住居の図面について
9	住居のトレース1（基本事項）
10	住居のトレース2（平面図）
11	住居のトレース3（立面図）
12	住居のトレース4（断面図）
13	安心できる住生活とまちづくり
14	ライフスタイルの多様化と住まい
15	「終の棲家」の計画

評価

出席30点、及び課題、随時のテスト等による評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『福祉住環境コーディネーター検定試験（3級テキスト）』

その他、授業の中で適時参考文献を配布、紹介する。

科目名	レクリエーション援助法		
担当教員名	菅野 清子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、人と人との出会いや人とのつながりにおいて、とても意味のある科目です。特に、社会福祉サービスにおいてレクリエーションの果たす役割は大きく、重要と言えます。ここでは、社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と、人々への日常的な楽しさや心地よさを提供する援助者としての役割について学んでいきます。また、援助者が身につけるためのコミュニケーション技術として、アイスブレーキングやホスピタリティ(心地よさ・人間関係能力)を演習します。これらは、介護コースの科目であるレクリエーション活動援助法につながる、基本的な学修と言えます。

学修目標は、下記の5点です。

1. 人と人との出会いの喜びを体験し、コミュニケーションを深める。
2. レクリエーションは、健康づくりをはじめ社会福祉や教育、地域づくり、環境に至るまで幅広い領域で活用されていることを理解する。
3. ノートやファイルなどを有効に活用し、資料作成を行うと共に、毎時間ごとのふりかえりや記録をとることの重要性を理解する。
4. レクリエーションにおけるホスピタリティについて理解し、姿勢・態度・行動を身につける。
5. コミュニケーション技術に必要な素材やアクティビティを体験し、人前で提供出来るようになる。

内容

1	はじめまして 出会いの喜び アイスブレーキングの体験プログラム
2	レクリエーションの意義 レクリエーションとは何か
3	レクリエーションと社会福祉について
4	レクリエーションの支援 利用者と援助者のあり方について
5	コミュニケーション・ワークの実践 アイスブレーキングの意義 演習
6	レクリエーション援助の素材、アクティビティの研究 演習
7	さまざまな領域におけるレクリエーションプログラムの実践
8	地域とレクリエーションの取り組み
9	レクリエーションにおけるホスピタリティとは トレーニングの重要性
10	レクリエーション援助のための計画づくり
11	レクリエーション事業について
12	レクリエーション援助の提供 演習
13	レクリエーション援助の提供 演習
14	目的や対象に合わせたレクリエーション援助の展開と応用
15	まとめ

評価

課題・レポート20% 演習発表20% 筆記試験40% 授業態度20% 60点以上を合格とします。合格点に満たな

かった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書は、特に使用しない。必要に応じてプリントを配布。

推薦書 福祉士養成講座編集委員会編集 新版 介護福祉士養成講座 第3版 レクリエーション活動 援助法 中央法規出版

ホスピタリティをみかく本 ホスピタリティトレーニング研究会 遊戯社

参考図書 レクリエーション支援の基礎 財団法人 日本レクリエーション協会

その他必要に応じて、随時教室で紹介する

科目名	社会福祉の歴史		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.現代社会における多様な社会福祉制度の諸原理や基礎概念を、その背後にある価値の問題とともに把握し、社会福祉が現代社会に存在する意味を考える。
- 2.社会福祉に関して欧米及び日本の歴史について理解するとともに、社会福祉の理念と意義について理解する。
- 3.社会福祉の法体系及び実施体制を理解するとともに、福祉需要の動向について理解する。
- 4.適宜、タイムリーな話題、事例を引用して身近な内容とする。

内容

1	生活と社会福祉	日々の生活と社会福祉のあり方について
2	現代社会と社会福祉	社会福祉の概念、範囲について
3	社会福祉の歴史：イギリス	社会福祉の発祥について
4	社会福祉の歴史：アメリカ	アメリカにおける発展について
5	社会福祉の歴史：日本 1	日本における前近代、近代の状況について
6	社会福祉の歴史：日本 2	日本における近代から戦後にかけての状況について
7	社会福祉の歴史：日本 3	日本における戦後から現在に至る状況について
8	社会福祉の歴史：日本 4	日本における現代の課題について
9	ソーシャルワーク	ソーシャルワークの実際について
10	公的責任と行財政	社会福祉の実施責任と費用の関係について
11	社会福祉の実施体制	地方自治体の実施体制について
12	ジェンダーと社会福祉	男女間格差の状況について
13	社会福祉サービスと従事者	実際の現場で働く専門職の状況について
14	直近の動向について	
15	まとめ	

評価

筆記試験(60点)レポート(40点)とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 社会福祉の原理と思想 有斐閣

【推薦書】 厚生労働白書

【参考図書】 社会福祉小六法 ミネルヴァ書房

科目名	女性と福祉		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

少子高齢社会、人口減少社会となったわが国において、社会保障・社会福祉は、一部の恵まれない人々への恩恵ではなく、あらゆる人々が生活の安定・安心を実現するために、人生のどこかで関わり、利用するものとなっている。福祉の利用者や福祉サービスを担う人々のイメージも大きく変化した。その結果、社会全体の福祉観も変わりつつある。しかし、社会的文化的性差（ジェンダー）が生活問題の発生に影響していることは変わらない。ジェンダー視点をもって福祉の多様な側面を検討することにより、等身大の福祉社会のあり方を考える。

内容

1	少子高齢時代の持続可能な社会のビジョンとは
2	男女共同参画に関する政策・制度の変化とその影響
3	社会保障・福祉サービスに関する政策・制度の変化とその影響
4	家族と労働の変化 - ワークライフバランス
5	児童の環境と出産・育児支援
6	母子・父子家庭の抱える問題
7	高齢者の自立と介護問題
8	障害者（児）の自立支援に関する問題
9	新たな貧困問題とホームレス
10	在日外国人の生活問題
11	売買春・セクハラ・DVの解決
12	福祉の仕事と教育
13	ボランティア・市民活動・NPOの役割
14	福祉を創りだした女性たち
15	レポートの報告と講評

評価

授業の関する意欲・関心および意見の発表・討議への参加態度（20点）、期末レポート（80点）とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：杉本貴代栄『ジェンダーで読む21世紀の福祉政策』有斐閣選書

春日キスヨ『介護とジェンダー』家族社 369.26/K

広井良典『持続可能な福祉社会』岩波新書 364/H

中西正司・上野千鶴子『当事者主権』岩波新書 369.1/N

杉本貴代栄『女性化する福祉社会』勁草書房

杉本貴代栄『ジェンダーで読む福祉社会』有斐閣選書 369/S

科目名	ボランティア・コーディネーション		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は、社会福祉展開科目として福祉に関する「ボランティア」を基本としてとらえる。他の科目として「市民活動論」と関連性がある。講義は、ボランティアに関する知識と推進するための技術としてコーディネーション力を、具体的実践事例を交えながら理解することを内容とする。学修目標は、1. ボランティアについて理解する。2. ボランティアコーディネーションについて理解する。3. ボランティアコーディネーターについて理解する。

内容

1	なぜ人はボランティアをするのか
2	ボランティアについて
3	ボランティア活動の意味
4	ボランティア活動の歴史
5	ボランティアのとらえ方
6	ボランティア活動の課題
7	コーディネーションの必要性
8	コーディネーション機能について
9	ボランティアコーディネーションについて
10	ボランティアコーディネーション事例の検証
11	ボランティアコーディネーターとは
12	ボランティアコーディネーションの視点について
13	ボランティアコーディネーターの価値とは
14	ボランティアコーディネーターの役割について
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート(30点)と、学修目標に基づくペーパーテスト(60点)、通常の授業態度(10点)により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

日本ボランティアコーディネーター協会編『市民社会の創造とボランティアコーディネーション』筒井書房

科目名	市民活動論		
担当教員名	田総 恵子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

社会福祉関連選択科目として、現代社会におけるNGOやNPOの活動について学ぶ。

私たちは、社会の中で色々な活動をする。学生として勉強する。生活者として働く。選挙の時には、有権者として投票する。特定の団体のメンバーとして、他のメンバーと共通の目的のために活動することもある。そんな様々な活動の中で、最近、社会の一員(市民)としての行動に関心が集まっている。そのように、人々が組織を作って社会のために活動する団体が、非政府団体(NGO)や非営利団体(NPO)と呼ばれるものだ。この授業では、人々が市民として新たに行動を起こす理由や目的、結成した団体の特徴、社会での活動の意義、政府や他の社会組織との関係、さらには、国際社会での協力関係や役割など、NGO やNPO の活動について、多角的に検証する。

NGOやNPOの活動の現状を理解し、社会における市民の役割を考える。

内容

講義のテーマは以下の通り。

1. 市民社会における社会運動:近代史
2. 市民社会における社会運動:現代史
3. 社会運動の組織化
4. NGO・NPOの誕生
5. 活動の動機:どうして活動を始めるのか
6. 活動の種類・目的:何をを目指すのか
7. 活動内容:何をするのか
8. 活動の拡大:誰と協力したのか
9. 活動の成果:何を達成したのか
10. 活動の影響(1):人々の意識
11. 活動の影響(2):地域社会
12. 活動の影響(3):経済
13. 活動の影響(4):国際社会
14. 市民社会の発展
15. まとめ

評価

レポート(45%)、試験(55%)で総合評価。再試験は行わない。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】大畑裕嗣 他 『社会運動の社会学』 有斐閣選書、2004 年

【推薦書】目加田説子 『行動する市民が世界を変えた』 毎日新聞社、2009年

【参考図書】長谷川公一 編 『講座環境社会学・環境運動と政策のダイナミズム』 有斐閣、2001 年

科目名	福祉と倫理		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

ケアリングの理論とそれに関連する思想の理解を深める。対人援助職の基本姿勢、態度の形成を目的とする意味では本授業は社会福祉基礎科目として位置づけられる、本科目は社会福祉の ケア及びケアリングの概念について理解を進め、対人援助職におけるケア及びケアリングの思想の意義を探究していくことをねらいとする。また近年注目されているスピリチュアリティの概念をはじめとした超越性とケアリングとの関連、及びケアリングと癒し（ヒーリング）の関連についても考察していく。 ケアリング概念について説明記述でき、ケアリングそれに関連するテーマや思想的背景について独自の意見を述べるができる

内容

1	オリエンテーション
2	各定義・概念の整理：ケアの語源、関連する概念
3	根源的なケア経験、ケアの動機
4	メイヤロフのケアリング論（概要）
5	メイヤロフのケアリング論（展開）
6	正義の論理とケアの論理
7	教育におけるケアリング論：ホリスティック教育論を中心に（入門）
8	教育におけるケアリング論：ホリスティック教育論を中心に（展開）
9	ケアリングとヒーリング（癒し）
10	ターミナルケア：広井のケア学
11	ターミナルケア：キューブラ・ロス、ミンデルの実践
12	対人援助職におけるケアの実践：基本的介護技術の実践、ホリスティック福祉への試論
13	対人援助職におけるケアの実践：事例
14	ケアリングとスピリチュアリティ：ホリスティック理論との関連、WHOでの議論
15	授業のまとめ

評価

授業中のミニレポート30点、最終レポートもしくは試験70点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書

ノットिंगス『ケアリング - 倫理と道徳の教育 女性の観点から - 』晃洋書房

メイヤロフ『ケアの本質』ゆみる出版

モンゴメリー『ケアリングの理論と実践 コミュニケーションによる癒し』医学書院

佐藤学『学びと死と再生』太郎次郎社

吉田敦彦 『ホリスティック教育論』 日本評論社

谷山洋三 『仏教とスピリチュアルケア』 東方出版

科目名	手話		
担当教員名	谷 千春		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は、主に福祉や介護の現場で働く人にとって必要な、聴覚に障害を持った人を理解したり意思の疎通を図るための知識や技術を学ぶためのものです。

科目の概要

聴覚障害というものを医学的、福祉的、社会的、心理的、文化的側面から見つめ、理解を深めます。

手話を中心に筆談、読唇、補聴器、空書き、補聴器、てのひら書き、触手話、指点字などのコミュニケーション手段について学びます。

学修目標

手話技術については、NPO手話技能検定協会が定める手話検定5級レベルの単語と例文を理解し、自己紹介や日常生活における簡単なやり取りができるようにします。

また、相手の聴力や、失聴年齢などに合わせたコミュニケーションを選択し、日常生活場面で使用できることを目指します。

内容

1	あいさつの表現
2	家族の表現
3	時制の表現
4	指文字(ア行～サ行)
5	名前の表現
6	指文字(タ行～ハ行)
7	趣味の表現
8	指文字(マ行～ワ行)
9	中途失聴者・難聴者のコミュニケーション
10	盲ろう者のコミュニケーション
11	地名の表現
12	自己紹介
13	食べ物に関する表現
14	スポーツに関する表現
15	まとめ

評価

手話による自己紹介形式の実技試験(50%)、学修目標に基づく筆記試験(40%)、通常の授業態度(10%)により評価を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

参考図書 実用手話ハンドブック/谷千春監修/新星出版/378.28/J

科目名	社会福祉基礎実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	相談援助演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(与えること受け取ること)
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(ブラインド・ウォーク)
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：実施
11	模擬面接：実施
12	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	授業のまとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

ジェラード・イーガン『カウンセリング・テキスト』創元社

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（与えること受け取ること）
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング（ブラインド・ウォーク）
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：実施
11	模擬面接：実施
12	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	授業のまとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

ジェラード・イーガン『カウンセリング・テキスト』創元社

科目名	相談援助演習		
担当教員名	大山 博幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Cクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助における基本的なコミュニケーション技術及び面接技術を習得することをねらいとする。相談援助を実施できる技術を習得するための演習科目であり、社会福祉士国家試験受験資格取得のための指定科目でもある。

対人コミュニケーションに関する諸理論を理解する。対人コミュニケーションに関するエクササイズやワークを通して体験的に理解を深める。相談援助における面接の技術を習得する。模擬面接場面等コミュニケーション場면을再構成し、その場面の省察的な学習を行う。

対人コミュニケーションを体験的に経験しそれらを振り返り記述することができる。傾聴を中心とした基本的な面接を行うことができる。面接場면을再構成した結果をもとに反省・省察することができる。

内容

1	オリエンテーション
2	対人コミュニケーションの理論：情報理論を中心に
3	対人コミュニケーションの理論：コミュニケーション語用論を中心に
4	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(与えること受け取ること)
5	対人コミュニケーションと気づきのワーク：ニューカウンセリング(ブラインド・ウォーク)
6	基本的面接・コミュニケーション技術：傾聴、共感
7	基本的面接・コミュニケーション技術：ジョイニング、プロンプトなど
8	基本的面接・コミュニケーション技術：反映技法、応答技法、質問など
9	基本的面接・コミュニケーション技術：支持、焦点化、問題の明確化、説明、提案など
10	模擬面接：実施
11	模擬面接：実施
12	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
13	模擬面接：スクリプト作成と評価・考察
14	模擬面接：結果の報告・シェア
15	授業のまとめ

評価

ミニレポート40点、最終レポート60点により評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

ポール・ワツラウィック他『人間コミュニケーションの語用論』二瓶社

伊東博『身心一如のニュー・カウンセリング』誠信書房

アレン・E・アイビー『マイクロカウンセリング』川島書店

ジェラード・イーガン『カウンセリング・テキスト』創元社

科目名	相談援助演習		
担当教員名	二渡 努		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は社会福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目である。「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」「地域福祉の理論と方法」「福祉行財政と福祉計画」「福祉サービスの組織と経営」「相談援助実習」「相談援助実習指導」などの科目と関連性がある。

本科目では相談援助に必要な知識・技術を修得する。総合的かつ包括的なソーシャルワークについて、具体的な相談援助事例を活用し、ロールプレイング等を通して知識と実践の統合を目指す。

本科目は演習であるため、積極的に参加する姿勢をもち、出席すること。グループ討論では、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に耳を傾けることを意識する事。

学修目標は 自己理解を深め、対人援助職としての価値観を養う 社会福祉援助に必要な知識・技術を実践スキルとして体得する事である。

内容

1	相談援助演習 オリエンテーション
2	孤独死の防止 アウトリーチ
3	ホームレス支援
4	ホームレス支援
5	地域における総合的支援 ネットワーキング
6	社会資源の活用・調整・開発
7	権利擁護活動
8	権利擁護活動
9	集団援助(グループワーク)
10	集団援助(グループワーク)
11	倫理綱領
12	倫理綱領
13	スーパービジョン
14	スーパービジョン
15	まとめ

評価

各回毎に記入するリアクションペーパーと提出物(40%)、発表(30%)、レポート(30%)により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席する事で評価を受けることができる。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。
参考となる図書は必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	二渡 努		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は社会福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目である。「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」「地域福祉の理論と方法」「福祉行財政と福祉計画」「福祉サービスの組織と経営」「相談援助実習」「相談援助実習指導」などの科目と関連性がある。

本科目では相談援助に必要な知識・技術を修得する。総合的かつ包括的なソーシャルワークについて、具体的な相談援助事例を活用し、ロールプレイング等を通して知識と実践の統合を目指す。

本科目は演習であるため、積極的に参加する姿勢をもち、出席すること。グループ討論では、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に耳を傾けることを意識する事。

学修目標は 自己理解を深め、対人援助職としての価値観を養う 社会福祉援助に必要な知識・技術を実践スキルとして体得する事である。

内容

1	相談援助演習 オリエンテーション
2	孤独死の防止 アウトリーチ
3	ホームレス支援
4	ホームレス支援
5	地域における総合的支援 ネットワーキング
6	社会資源の活用・調整・開発
7	権利擁護活動
8	権利擁護活動
9	集団援助(グループワーク)
10	集団援助(グループワーク)
11	倫理綱領
12	倫理綱領
13	スーパービジョン
14	スーパービジョン
15	まとめ

評価

各回毎に記入するリアクションペーパーと提出物(40%)、発表(30%)、レポート(30%)により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席する事で評価を受けることができる。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。
参考となる図書は必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	二渡 努		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は社会福祉士国家試験受験資格を得るために必要な科目である。「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」「地域福祉の理論と方法」「福祉行財政と福祉計画」「福祉サービスの組織と経営」「相談援助実習」「相談援助実習指導」などの科目と関連性がある。

本科目では相談援助に必要な知識・技術を修得する。総合的かつ包括的なソーシャルワークについて、具体的な相談援助事例を活用し、ロールプレイング等を通して知識と実践の統合を目指す。

本科目は演習であるため、積極的に参加する姿勢をもち、出席すること。グループ討論では、自分の意見を述べるだけでなく、他者の意見に耳を傾けることを意識する事。

学修目標は 自己理解を深め、対人援助職としての価値観を養う 社会福祉援助に必要な知識・技術を実践スキルとして体得する事である。

内容

1	相談援助演習 オリエンテーション
2	孤独死の防止 アウトリーチ
3	ホームレス支援
4	ホームレス支援
5	地域における総合的支援 ネットワーキング
6	社会資源の活用・調整・開発
7	権利擁護活動
8	権利擁護活動
9	集団援助(グループワーク)
10	集団援助(グループワーク)
11	倫理綱領
12	倫理綱領
13	スーパービジョン
14	スーパービジョン
15	まとめ

評価

各回毎に記入するリアクションペーパーと提出物(40%)、発表(30%)、レポート(30%)により評価を行い、60点以上を合格とする。三分の二以上出席する事で評価を受けることができる。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は使用しない。随時プリントを配布する。
参考となる図書は必要に応じて随時教室で紹介する。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。学修目標は以下の5点である。1.地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。2.地域福祉の計画策定手法を理解する。3.ネットワーキングを理解する。4.社会資源の活用・調整・開発を理解する。5.サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉のとらえ方
2. 地域福祉実践の現状と課題とは
3. 地域福祉の基盤整備と開発に向けて
4. 住民に対するアウトリーチ
5. ニーズ把握の方法
6. 地域福祉に関する計画づくりの意義
7. 計画策定に向けた住民参加の手法
8. 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例概要(対象者理解)
9. 個別・地域アセスメント
10. ネットワーキング
11. 社会資源の活用・調整
12. 社会資源の開発
13. 専門職の支援視点と留意点
14. サービス評価
15. まとめ

評価

各回ごとの課題作成(20%)、演習における発言及び口頭発表(20%)、学修目標に関するレポート(50%)と、通常の授業態度(10点)、五分の四以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

参考図書

社団法人日本社会福祉士養成校協会 『社会福祉士 相談援助演習』 中央法規出版株式会社

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 『コミュニティソーシャルワークの理論と実際』

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 『コミュニティソーシャルワーク』 中央法規出版株式会社

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。学修目標は以下の5点である。1. 地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。2. 地域福祉の計画策定手法を理解する。3. ネットワーキングを理解する。4. 社会資源の活用・調整・開発を理解する。5. サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉のとらえ方
2. 地域福祉実践の現状と課題とは
3. 地域福祉の基盤整備と開発に向けて
4. 住民に対するアウトリーチ
5. ニーズ把握の方法
6. 地域福祉に関する計画づくりの意義
7. 計画策定に向けた住民参加の手法
8. 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例概要(対象者理解)
9. 個別・地域アセスメント
10. ネットワーキング
11. 社会資源の活用・調整
12. 社会資源の開発
13. 専門職の支援視点と留意点
14. サービス評価
15. まとめ

評価

各回ごとの課題作成(20%)、演習における発言及び口頭発表(20%)、学修目標に関するレポート(50%)と、通常の授業態度(10点)、五分の四以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

参考図書

社団法人日本社会福祉士養成校協会 『社会福祉士 相談援助演習』 中央法規出版株式会社

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 『コミュニティソーシャルワークの理論と実際』

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 『コミュニティソーシャルワーク』 中央法規出版株式会社

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	10クラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、社会福祉士養成課程教育カリキュラムにおける「総合的かつ包括的な相談援助の理念と方法に関する知識と技術」に関する科目「相談援助の基盤と専門職」「相談援助の理論と方法」(本学科目名「ソーシャルワーク論 から 」)との関連性を視野に入れ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理念化して体系立てていくことができる能力を涵養する。本科目は、総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を体系的に取り上げ、個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行う。学修目標は以下の5点である。1.地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握について理解する。2.地域福祉の計画策定手法を理解する。3.ネットワーキングを理解する。4.社会資源の活用・調整・開発を理解する。5.サービス評価について理解する。

内容

1. 地域福祉のとらえ方
2. 地域福祉実践の現状と課題とは
3. 地域福祉の基盤整備と開発に向けて
4. 住民に対するアウトリーチ
5. ニーズ把握の方法
6. 地域福祉に関する計画づくりの意義
7. 計画策定に向けた住民参加の手法
8. 地域福祉の基盤整備と開発に係る事例概要(対象者理解)
9. 個別・地域アセスメント
10. ネットワーキング
11. 社会資源の活用・調整
12. 社会資源の開発
13. 専門職の支援視点と留意点
14. サービス評価
15. まとめ

評価

各回ごとの課題作成(20%)、演習における発言及び口頭発表(20%)、学修目標に関するレポート(50%)と、通常の授業態度(10点)、五分の四以上出席することで評価を受けることができ、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト

使用しません。必要に応じて随時プリントを配布。

参考図書

社団法人日本社会福祉士養成校協会 『社会福祉士 相談援助演習』 中央法規出版株式会社

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 『コミュニティソーシャルワークの理論と実際』

特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 『コミュニティソーシャルワーク』 中央法規出版株式会社

科目名	相談援助演習		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野にいれつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行うこと。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

評価

授業態度およびレポートにより評価します。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業のなかでその都度紹介します。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	佐藤 陽		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野にいれつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行うこと。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

評価

授業態度およびレポートにより評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業のなかでその都度紹介します。

科目名	相談援助演習		
担当教員名	安岡 芙美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	2Cクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野にいれつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系だてていくことができる能力を涵養する。

総合的かつ包括的な援助及び地域福祉の基盤整備と開発にかかる具体的な相談援助事例を体系的にとりあげること。
個別指導並びに集団指導を通して、具体的な援助場面を想定した実技指導を中心とする演習形態により行うこと。

内容

相談援助実習後に行う。

相談援助にかかる知識と技術について個別的な体験を一般化し、実践的な知識と技術として習得できるように、相談援助実習における学生等の個別的な体験も視野に入れつつ、集団指導並びに個別指導による実技指導を行う。

評価

授業態度およびレポートにより評価します。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業のなかでその都度紹介します。

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 1
3	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 2
4	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 3
5	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解 4
6	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 1
7	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解 2
8	現場体験学習及び見学学習
9	相談援助にかかわる知識と技術に関する理解
10	個人情報保護と守秘義務の理解
11	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 1
12	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 2
13	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 1
14	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 2
15	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成 3

評価

レポート、実習計画作成等について総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

学科作成によるマニュアル

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	大山 博幸、栗原 直樹、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	実習分野 (利用者理解を含む) と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
3	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
4	現場体験学習及び見学学習
5	相談援助に係る知識と技術に関する理解
6	個人情報保護と守秘義務の理解
7	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
8	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
9	巡回指導
10	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 1
11	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 2
12	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 3
13	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 4
14	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 5
15	実習の全体的総括

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

学科作成によるマニュアル

科目名	相談援助実習指導		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 相談援助実習の意義について理解する。
- 2 個別指導、集団指導を通して相談援助に係る知識と技術について実際に理解し実践的な技術を体得する。
- 3 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理等、総合的に対応できる能力を習得する。
- 4 具体的な体験、援助活動を、専門的援助技術として理論化し体系立てていく能力を滋養する。

内容

1	相談援助実習と相談援助実習指導における個別指導と集団指導の意義
2	実習分野(利用者理解を含む)と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解
3	実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する基本的な理解
4	現場体験学習及び見学学習
5	相談援助に係る知識と技術に関する理解
6	個人情報保護と守秘義務の理解
7	「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解
8	実習生、担当教員、実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成
9	巡回指導
10	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 1
11	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 2
12	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 3
13	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 4
14	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポート作成 5
15	実習の全体的総括

評価

実習状況、記録、報告書、実習先の評価等を含んで総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学科作成によるマニュアル

科目名	基礎介護論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	基礎介護論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	介護と倫理		
担当教員名	織田 つや子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

介護従事者の倫理とその課題を学ぶ

[授業全体の内容の概要]

講義及びグループワークによる

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

介護従事者の倫理とその課題を理解できる

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

1	オリエンテーション
2	専門職とは(1) 専門職とはなにか
3	専門職とは(2) 個人の価値観と専門職の価値
4	専門職の価値(1) 倫理綱領
5	専門職の価値(2) 倫理綱領の作成
6	専門職の価値(3) 倫理綱領の検討
7	プライバシーの保護(1) 個人情報保護法
8	プライバシーの保護(2) 個別ケアとプライバシー
9	プライバシーの保護(3) 個人の尊厳と自立支援
10	利用者の人権(1) 虐待の定義と現状
11	利用者の人権(2) 高齢者虐待 事例検討
12	利用者の人権(3) 高齢者虐待 事例検討
13	利用者の人権(4) 障がい者虐待 事例検討
14	利用者の人権(5) 児童虐待 事例検討
15	まとめ

評価

[単位認定の方法及び基準]

試験40点 演習シート50点 平常点10点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト・参考文献]

介護福祉士養成講座編集委員会 『新・介護福祉士養成講座 3 介護の基本 』中央法規出版

介護福祉士養成講座編集委員会 『新・介護福祉士養成講座 4 介護の基本 』中央法規出版

科目名	介護と自立		
担当教員名	久保田 直子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目は介護福祉士養成課程教育カリキュラムにおける介護の基本に関する科目のひとつです。「その人らしい自立」「自立に向けた介護」について様々な視点から学びます。

科目の概要

はじめに、様々な「自立」の概念を学びます。各年齢に応じた自立、心身の障がいを持ちながらの自立、他者との関係の中での自立、など概念としての「自立」について考えていきます。

次に、動作の自立について学びます。身体を動かして自ら感じ取ることや他者の動きを観察することを通してその人の潜在能力を引き出す介護方法を学びます。また、その人に適した車椅子・装具・自助具等の道具の利用方法について学びます。

さらに、実際の介護場面での「自立に向けた介護」がイメージできることを目指して、医療・福祉現場での実践事例の紹介、自立を支える様々な専門職からのレクチャーなどを予定しています。

学修目標

1. その人らしい自立とは何かを理解する。
2. 動作の自立をみずえた介護方法を理解し、簡単な実践ができる。
3. 自立した生活を支えるために多職種連携が必要であることについて理解し、イメージができる。

内容

1	自立とは
2	自立に向けた介護(1) ベッド上での動作自立
3	自立に向けた介護(2) 座位、立位での動作自立
4	自立に向けた介護(3) 歩行の自立
5	自立に向けた介護(4) 姿勢の工夫
6	自立に向けた介護(5) 道具の利用
7	ICFの理解(1) 総合的な視点としてのICF
8	ICFの理解(2) 隠れたプラスの側面を引き出すICF
9	自立を支える専門職(1)
10	自立を支える専門職(2)
11	自立を支える専門職(3)
12	自立を支える専門職(4)
13	医療・福祉現場での実践事例(1)
14	医療・福祉現場での実践事例(2)
15	まとめ

評価

レポート（30点）、実技（20点）、試験（50点）により評価を行い、60点以上を合格とする。
合格点に満たなかった場合は「再試験」を行いません。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】必要に応じ随時プリントを配布する

【推薦書】野尻晋一著『リハビリテーションからみた介護技術』中央法規

【参考図書】上田敏著『ICF（国際生活機能分類）の理解と活用 人が「生きること」「生きることの困難（障害）」をどうとらえるか』

科目名	介護と環境		
担当教員名	狐塚 七重		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

【授業の目的・ねらい】

介護における安全の確保とリスクマネジメントを利用者の立場、介護福祉士の立場から理解する。

【授業全体の内容の概要】

講義とグループワークによる。

【授業修了時の達成課題(到達目標)】

介護における安全の確保を利用者の立場、介護福祉士の立場を理解できる。

内容

1	オリエンテーション
2	介護における安全の確保 (1) 介護における安全の確保の重要性
3	介護における安全の確保 (2) 安全確保のためのリスクマネジメント
4	介護における安全の確保 (3) 事故・トラブルを繰り返さないための検討
5	事故防止・安全対策 (1) 事故防止・安全対策のためのリスクマネジメントの仕組み
6	事故防止・安全対策 (2) 演習・事例検討
7	事故防止・安全対策 (3) 生活の中のリスクと対策
8	事故防止・安全対策 (4) 演習
9	感染管理のための方策 (1) 生活の場での感染対策・演習
10	感染管理のための方策 (2) 感染対策の基礎知識・演習
11	介護に携わる人の健康管理 (1) 健康管理の意義と目的
12	介護に携わる人の健康管理 (2) 心の健康管理
13	介護に携わる人の健康管理 (3) からだの健康管理
14	安心して働ける環境づくり 労働環境の整備
15	まとめ

評価

「授業に対する意欲・関心・態度」30点 「最終試験の点数－理解度の確認」70点

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

介護の基本 (新介護福祉士養成講座) 編集 介護福祉士養成講座編集委員会 中央法規

科目名	介護と地域		
担当教員名	松山 義夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

この科目はケアワーカーが高齢者支援にあたり必要とされる地域福祉の全般について事例を通してながら実際的に学ぶものでソーシャルワークの専門科目の「地域福祉論 」、「地域福祉論 ）」とも関連性があります。

科目の概要

講義では地域というものは何であるかを考え、地域福祉サービスの組織を実際的に理解し、障害者・高齢者の地域連携や支援のあり方について学びます。また日本とデンマークの高齢者福祉の比較を試みます。

学修の目標

地域福祉の理念を理解する

地域の高齢者支援体制を理解する

福祉先進国との比較により日本の福祉の位置を確認する

内容

1	介護と地域とは
2	地域社会の課題
3	地域福祉の理念(ノーマライゼーション)とは
4	地域福祉の推進
5	地域福祉サービスとは
6	社会福祉協議会
7	地域包括支援センター
8	高齢者介護施設
9	地域福祉の担い手
10	過疎地の高齢者と地域課題
11	過疎地の地域連携・ボランティア活動
12	デンマークの高齢者福祉事情
13	デンマークの介護福祉士教育
14	日本とデンマークの福祉比較
15	まとめ

評価

レポート(30%)、通常の授業態度(20%)、試験(50%)により評価を行い60%以上を合格とします。

合格点に満たなかった場合は再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【参考図書・辞典等】社会福祉士養成講座編集委員会 新・社会福祉士養成講座第9巻『地域福祉の理論と方法』第2版
中央法規株式会社、日本地域福祉学会編集『地域福祉辞典』
必要に応じて随時教室で資料を配布します。

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	コミュニケーション技術		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士に必要なコミュニケーション理論・技術についての演習を行う。

授業の概要

コミュニケーション技術 では、(1) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、(2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション(3) 介護におけるチームのコミュニケーションの基本、について演習を展開する。

学修目標

本科目の学修目標は、(1) 介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションの基本について、(2) 利用者の特性に応じたコミュニケーション(3) 介護におけるチームのコミュニケーションの基本、グループワーク演習を主体としてその理論とスキルを習得することを目標とする。

内容

1	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(1)
2	介護場面における利用者とのコミュニケーションの基本(2)
3	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(1)
4	介護場面における家族とのコミュニケーションの基本(2)
5	利用者の特性に応じたコミュニケーション(1) 高齢者とコミュニケーション
6	利用者の特性に応じたコミュニケーション(2) 認知症とコミュニケーション
7	利用者の特性に応じたコミュニケーション(3) 認知症とコミュニケーション
8	利用者の特性に応じたコミュニケーション(1) 障害とコミュニケーション
9	利用者の特性に応じたコミュニケーション(2) 障害とコミュニケーション
10	利用者の特性に応じたコミュニケーション(3) 障害とコミュニケーション
11	介護におけるチームのコミュニケーションの基本(1)
12	介護におけるチームのコミュニケーションの基本(2)
13	実習場面における再構成(1)
14	実習場面における再構成(2)
15	まとめ

評価

課題レポート30%、定期試験70%の結果を総合して行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

介護福祉士養成講座編集委員会（編集）『新・介護福祉士養成講座 第5巻コミュニケーション技術』中央法規，2009年。
他オリジナル資料配付

科目名	生活支援技術概論		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	日常生活支援技術		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	生活環境支援技術		
担当教員名	高間 謙治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

「ケアワーク」は、日常生活に根ざした広い視野に立ち、食生活、被服生活、住生活などの各専門分野について理解を深めることが重要である。

このような視点から、介護の基礎となる「生活環境」とそこで営まれる「住」に関する様々な技能を習得し、かつ高齢者や障害者の生活環境支援の能力を養うことを目的としている。

住生活について様々な視点から解説を行い、高齢者や障害者の生活環境支援のための技術について理解を深めるものである。

但し、モデルの制作などを行うため、人数に制限あり。

内容

1	現代の生活環境
2	100年前の暮らしと現代の暮らし
3	快適な現代生活と家庭電化製品
4	生活と色彩
5	色彩の基本とシステム
6	色彩調和
7	住居の役割と機能
8	住居の図面
9	住居のトレース1 (基本事項)
10	住居のトレース2 (平面図)
11	住居のトレース3 (立面図)
12	住居のトレース4 (断面図)
13	「ある介護福祉士の物語」1
14	「ある介護福祉士の物語」2
15	「ある介護福祉士の物語」3

評価

出席30点、及び課題、随時のテスト等による評価70点により行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の中で、適時参考文献を配布・紹介する。

科目名	家事生活支援技術		
担当教員名	山口 典子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は人間生活学部で学ぶすべての科目の基礎となる理論を説くものである。

人間生活の福祉を考えるうえで、その根底にあるのが家政学であり、人間生活はこれを基礎としている。福祉を学ぶ学生にとって家事生活支援技術は理論を見地化するうえで不可欠な科目である。授業を通して家庭生活について基本的な知識・技術を学び、日常の生活を充実させ、支援することのできる総合的な視点と思考力および実践的な態度を養う。

学修目標は次の通りである。

家事生活支援技術の基礎的知識と理論が理解できたか。

家事生活支援技術を学ぶ方法論が身についたか。

他の科目と総合し、学問的な態度をもって実践することができるか。

内容

1	ガイダンス(科目の学び方とその視点)
2	家庭生活の基礎知識(個人と家庭生活)
3	家庭生活の基礎知識(家庭生活とその経営、生活設計)
4	高齢者の家庭生活の特徴と問題点
5	障害者の家庭生活の特徴と問題点
6	家事援助の技法(調理1)
7	家事援助の技法(調理2)
8	家事援助の技法(掃除・ごみ捨て)
9	家事援助の技法(衣生活の基礎知識)
10	家事援助の技法(衣類・寝具の衛生管理)
11	家事援助の技法(裁縫1)
12	家事援助の技法(裁縫2)
13	家事援助の技法(買物)
14	自立に向けた家事の介護(利用者の状況に応じた介助の留意点)
15	総括

評価

平常点・課題40% 試験60% 2/3以上出席することで評価を受けることができ、合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】必要に応じて随時プリントを配布する

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業における学習のねらいは、障害に応じて、その人の状況に合わせた介護を行い、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、さまざまな障害を持つ利用者の生活について理解を深め、どのような介護が求められているかを理解する。

内容

利用者の状態・状況に応じた生活支援について理論と技術を学ぶ

1. 利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは何か
2. 障害に応じた生活支援技術
 - 視覚障害に応じた介護
 - 聴覚・言語障害に応じた介護
 - 運動機能障害に応じた介護
 - 知的障害に応じた介護
 - 精神障害に応じた介護

評価

課題レポート(30%)、ペーパーテスト・実技試験(70%) 60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	生活支援技術応用		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

この授業における学習のねらいは、障害に応じて、その人の状況に合わせた介護を行い、どのような状態にあっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、適切な介護技術を用いて、安全に支援できる技術や知識を習得することにある。さらに、さまざまな障害を持つ利用者の生活について理解を深め、どのような介護が求められているかを理解する。

内容

1. 障害に応じた生活支援技術
 - 発達障害に応じた介護
 - 重複障害(重症心身)に応じた介護
 - 重複障害(盲ろう)に応じた介護
2. 認知症のある人に応じた生活支援技術
 - 認知症介護の基本視点
 - 認知症介護の事例

評価

課題レポート(30%)、ペーパーテスト・実技試験(70%) 60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規出版

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	杉浦 史晃		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護サービスの目的は、支援の対象となる人々がいきいきと生きがいを感じながら生きることができるように、生活全体を活性化することです。そのために介護に携わる専門職には、要介護者がやすらぎやふれあいの心地よさを感じ、生活を明るく楽しく過ごせるように支援する視点と、技能が必須となります。本科目では、社会福祉サービスにおけるレクリエーションの意味と価値を明らかにするとともに、介護に携わる専門職として身につけるべき、利用者の笑顔や会話を引き出すコミュニケーション技法等について演習を織り交ぜながら学びます。

学修目標は次の通りです。

- 1-笑い、笑顔の効用を理解する。
- 2-豊かなコミュニケーションを実現するための方法を理解し、それを身につける(られるよう努力する)。
- 3-介護とはよりよい生活を支援するひとつの方法であることを理解し、その人の社会生活力を引き出すための介護者の働きかけについて探求する。

内容

1	ふくしとは=ふつうのくらしのしあわせを実現すること。普通の暮らしの幸せとは？
2	介護現場の余暇支援、レクリエーション支援を検証する。それは本当に必要か？
3	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究 1
4	リハビリテーションや訓練は要介護者の生活に必要なか？
5	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究 2
6	知らない人に介護されたい？ 人と人が深く知り合っていくために必要な過程とは何か？
7	人と人が「ともにある」とはどういうことか？ 共感の仕組みを理解しよう
8	廃用症候群、廃用型認知症を考える。意欲ある生活を支える元気な脳の状態とは？
9	あなたがフローを感じるのはどんな時？ フロー理論を理解しよう
10	介護者が身につけるべきコミュニケーション技術や人間関係能力を検討する
11	コミュニケーション技術、人間関係能力をさらに深める
12	良いところ探しの技術
13	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究 3
14	様々な施設、障害形態別のレクリエーションの実際、素材研究 4
15	まとめ

評価

筆記・実技試験(40点)、毎時間ごとのふりかえり(30点)、授業態度(30点)を評価し、60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は、再試験(レポート提出)を行います。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】 藺田碩哉監修 『レクリエーションの援助』 共栄出版株式会社 およびプリント配布

【推薦書】 『第3版 レクリエーション活動援助法』 中央法規

科目名	生活支援技術展開		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護は身体や精神に障害があっても、その人らしい生活をできる限り尊重して自立できるように最小限の援助を行うことが基本である。生活支援技術演習・・・で学んだ生活援助の技術をさらに発展させ、自立を目指す応用介護技術を学ぶ。特に慢性疾患を持ちながら生活している利用者の自己管理や、医療対応の基礎知識および緊急時対応からターミナル期の介護にいたるまでの、必要な知識技術をもち、適切な援助ができることを目指している。

内容

1	ガイダンス
2	医療との連携に必要な「薬の基礎知識」
3	医療との連携に必要な「治療食の知識」
4	医療的ケアの基礎知識
5	医療との連携に必要な基礎知識「身体不調時の対応」
6	緊急時の対応1(応急手当、事故とその対応)
7	緊急時の対応2(心肺蘇生の知識と実践)
8	終末期の介護(終末期における介護の意義・目的)
9	「喪失体験」と、悲しみのわかちあい
10	延命治療、緩和ケア、リビングウィルから、尊厳保持を考える
11	現在の「死」の迎え方(病院死、家庭死について考える)
12	医療との連携(終末期の身体状態の観察と異常の早期発見、医療との連携)
13	終末期の介護(臨終時の介護の実際)
14	終末期の介護(グリーフケア)
15	まとめ

評価

学習状況・レポート提出状況(40%)、ペーパーテスト(60%)により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】介護福祉士養成講座編集委員会 『生活支援技術』 中央法規

【参考図書】適宜紹介

科目名	介護過程基礎		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	介護過程基礎		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：1年後期では「基礎介護論」、「生活支援技術」、「」を学び、また「介護実習1」を終えて利用者を理解する介護のプロセスが進行している。これらを経て、2年後期の介護実習 - 1、3年前期の介護実習 - 2を準備するために、基礎的な介護過程展開を学ぶ。また後2年後期の「介護過程展開」の科目と連動している。

科目の概要：「介護過程基礎1」で行った情報収集の手法を基礎に、介護課題の抽出、介護計画作成、評価、再アセスメントに至る過程を学ぶ。当事者による講演や映像などを通じて、トータルに利用者の暮らしと命を支える介護の役割を考える。各自の作成した介護計画をグループワークを用いて検証、考察する。

修学の目標：

- 1) 利用者の願いや思いを汲み取った情報収集から課題抽出への手法を理解することができる。
- 2) 平易な事例から、情報収集、介護課題の抽出、介護計画作成、評価、再アセスメントを完成させることができる。
- 3) これらを振り返り介護家庭にかかわる自己課題を明らかにできる。

内容

1	オリエンテーション 「介護過程基礎1」振り返り
2	介護過程展開ための構成要素
3	情報収集事項の関連付けと整理
4	利用者の立場に立った課題抽出の視点
5	利用者の尊厳を守る課題抽出の視点と方法
6	優先順位の考え方
7	介護目標の作成
8	介護計画1
9	介護計画2
10	援助者としての自分を見つめる
11	映像から学ぶ～利用者の尊厳を大切にしたい介護計画事例
12	介護過程事例発表(1)
13	介護過程事例発表(2)
14	まとめ
15	振り返り

評価

提出物30%、筆記試験70%、60点以上で合格

合格に達しない場合には再試験を行う

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：介護福祉教育研究会編「楽しく学ぶ介護過程」k u m i

推薦書：澤田信子等編「介護過程」ミネルヴァ書房

参考書：随時授業の中で紹介します

科目名	介護過程展開		
担当教員名	宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護過程基礎で学んだ1.介護過程の4つの構成要素(アセスメント 計画立案 実践 評価・考察)、2.ICF理論について、を基礎とし、介護過程展開 では、事例(主に高齢者と障害者)によるケアプランの作成と介護過程の展開プロセスの理解を深めることを目的とする。

科目の概要

高齢者の事例を提示し、グループワークを展開しグループ発表を行う。介護保険制度の概要についても理解を深める。

学修内容

3年次の応用介護実習における、個別のケアプランの作成の基礎技能を身に付けることを到達課題とする。

内容

1	オリエンテーション	内 容：事例研究の進め方とグループワークの内容について理解
2	事例1.高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1.のグループワーク演習実践
3	事例1.高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1.のグループワーク演習実践
4	事例1.高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1.グループワーク演習(発表準備)
5	事例1.高齢者施設利用者のケアプラン	内 容：事例1.グループワーク発表
6	事例2.居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例2.のグループワーク演習実践
7	事例2.居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例2.のグループワーク演習実践
8	事例2.居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例2.のグループワーク(発表準備)
9	事例2.居宅サービス利用者のケアプラン	内 容：事例2.グループワーク発表
10	事例2.認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例2.のグループワーク演習実践
11	事例2.認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例2.のグループワーク演習実践
12	事例2.認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例2.のグループワーク演習実践(発表準備)
13	事例2.認知症高齢者のケアプラン	内 容：事例2.グループワーク演習実践発表
14	テーマ：高齢者のケアプラン・介護過程総括	内 容：高齢者のケアプラン・介護過程総括
15	まとめ	

評価

1.演習態度、2.演習発表内容、3.筆記試験、を総合して評価を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

オリジナル資料の配付。

科目名	介護過程展開		
担当教員名	中村 幸子、坂本 佳代子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養うことがねらい。特に障害者介護の現場での実践的展開を理解する。

[授業全体の内容の概要]

障害者介護における介護過程の実践的展開を理解させる。

介護過程の展開について実習等で展開できるようにする。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

障害者介護における介護過程の展開について説明できるようになる。

介護過程の展開について実習等で展開できるようになる。

内容

1	介護過程の実践的展開(障害者)総論
2	障害者介護における介護過程の展開の実際 生活とは
3	障害者介護における介護過程の展開の実際 自立の視点
4	障害者介護における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
5	障害者介護における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
6	障害者介護における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
7	障害者介護における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
8	知的障害者支援における介護過程の展開の実際 生活とは
9	知的障害者支援における介護過程の展開の実際 自立の視点
10	知的障害者支援における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
11	知的障害者支援における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
12	知的障害者支援における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
13	知的障害者支援における利用者の状態・状況に応じた介護過程の展開の実際
14	障害者施設等での介護実習における介護過程の展開の応用
15	まとめと確認テスト

評価

学習状況・レポート提出状況(50%)、ペーパーテスト(50%)により総合的に評価を行い、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 介護福祉教育研究会「改訂版 楽しく学ぶ介護過程」久美出版

適宜、資料配布

科目名	介護サービス計画		
担当教員名	中島 園恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

本科目は、介護支援専門員(ケアマネジャー)が作成する介護サービス計画について学ぶ科目です。

講義では、介護サービス計画を作成する前に必要となるアセスメントから、看護・介護等のサービス提供者が作成する個別サービス計画との関係までを、介護支援サービスの構造と過程から総合的に学びます。

学修目標は、次の3点です。

介護サービス計画ならびに個別サービス計画に共通するアセスメントの視点と方法について理解することができる。

介護サービス計画と個別サービス計画の関係を理解することができる。

介護保険制度における介護サービス計画と個別サービス計画の現状と課題について理解することができる。

内容

1	生活を総合的に捉える視点とは何か
2	アセスメントの目的・枠組み・方法
3	アセスメントの実際
4	アセスメントの事例
5	アセスメントの事例
6	介護保険制度に位置づけられた介護支援サービス
7	介護保険制度の給付構造
8	施設と在宅の違い
9	介護サービス計画とは何か
10	個別サービス計画とは何か
11	介護サービス計画と個別サービス計画の関係
12	計画と実践の循環
13	介護サービス計画と個別サービス計画の現状
14	介護サービス計画と個別サービス計画の課題
15	まとめ

評価

筆記試験6割、通常の授業態度1割により評価を行います。60点以上を合格とします。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】

生活アセスメント研究会編『福祉・介護に求められる生活アセスメント』中央法規出版株式会社、2007年

【参考図書】教室で紹介します。

科目名	介護実習 - 1		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士コース必須専門科目。介護実習 の履修・単位認定が前提となる。

科目の概要

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。

個別ケアを行うためのこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

学修目標

実習計画に基づき、規定の実習日数を実施。

科目の概要について、配属実習先で専門的スキルを習得する。

内容

[授業全体の内容の概要]

- ・実習施設・事業等 の学外施設実習（合計6日間）
- ・実習施設・事業等 の学外施設実習（合計17日間）

[授業終了時の達成課題（到達目標）]

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができる。

介護職の業務の流れが理解できる。

多職種協働の実践ができる。

個別ケアを理解するため、介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程の実践ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

- ・2年生 前期 在宅介護事業所、訪問入浴事業所等

合計6日間（48時間）

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

- ・2年生 後期 介護老人福祉施設・介護老人保健施設等の入所施設

合計 17日間 (136時間)

評価

実習記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価による総合評価。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

学内作成「実習の手引」

オリジナル資料配付

科目名	介護実習 - 2		
担当教員名	中村 幸子、新井 幸恵、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。

個別ケアを行うためのこの生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を統合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。

内容

[授業全体の内容の概要]

- ・実習施設・事業等 の学外施設実習(合計23日間)

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

利用者の生活の場である多様な介護現場において、利用者の理解を中心とし、これに併せて利用者・家族等との関わりを通じたコミュニケーションの実践ができる。

介護職の業務の流れが理解できる。

多職種協働の実践ができる。

個別ケアを理解するため、介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護福祉士としての一連の介護過程の実践ができる。

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

実習施設・事業等 に区分される事業所での学外施設実習

- ・3年生集中 介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者療養施設等の入所施設
合計23日間(184時間)

評価

実習状況、記録物、教員との面接、実習施設による評価等により、総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

学内作成「実習の手引き」

科目名	介護総合演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	介護総合演習		
担当教員名	中村 幸子、新井 幸恵、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

介護福祉士コース必須専門科目。介護総合演習 の履修・単位認定が前提となる。

科目の概要

介護実習 - 1 及び - 2 の実習事前学習及び事後指導を行う。

概要は内容を参照。

学修目標

実習計画を作成し、配属実習施設の概要と理解を図る。

介護過程の展開方法について理解を図る(アセスメント方法の理解と実施)。

内容

1. 介護実習 - 1

実習事前指導 4 コマ

- ・実習オリエンテーション
- ・配属施設の概要と理解
- ・実習計画書の作成

実習事後指導 3 コマ

- ・実習記録物の確認
- ・担当教員とのスーパービジョン
- ・実習報告会

2. 介護実習 - 2

実習事前指導 4 コマ

- ・実習オリエンテーション
- ・配属施設の概要と理解
- ・実習計画書の作成

実習事後指導 3 コマ

- ・実習記録物の確認

- ・担当教員とのスーパービジョン
- ・実習報告会

評価

記録物、教員との面接、実習施設による評価、自己評価等による総合評価。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

学内作成「実習の手引」

オリジナル資料配付

科目名	介護総合演習		
担当教員名	中村 幸子、新井 幸恵、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護実習の教育効果を上げるため、介護実習前の介護技術の確認や施設等のオリエンテーション、実習後の事例報告など、実習に必要な知識や技術について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。

[授業全体の内容の概要]

実習と組み合わせの学習とし、介護実習の意義、介護実習の実習先の特徴、介護実習に必要な知識や技術について理解させる。また介護実習についての自身の学習課題と学習成果を明確化させる。

[授業修了時の達成課題(到達目標)]

必要な基本的な知識や技術、記録の方法などについて活用することができる。

介護施設の概要と利用者の生活像、介護福祉士の役割について説明できる。

自分自身の介護実習 - 1における学習課題を言語化できる。

内容

1	介護実習 - 1の事後指導 (全体およびグループ)
2	介護実習 - 1の実習報告会
3	介護実習 - 2とは何か
4	実習における介護過程の展開 (情報収集)
5	実習における介護過程の展開 (個別介護計画)
6	実習における介護過程の展開 (実施と評価)
7	介護実習 - 2の実習施設理解
8	介護実習 - 2の実習目標の立て方
9	介護実習 - 2の実習計画の立て方
10	介護実習 - 2の実習計画を立てる
11	介護事例研究(ケーススタディ)の理解
12	介護実習 - 2に向けたグループ指導
13	介護実習 - 2に向けたグループ指導
14	実習オリエンテーションに向けた確認
15	実習前報告会

評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により総合的に評価する。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

「ケーススタディをはじめよう!介護事例研究の手引き」日総研

科目名	介護総合演習		
担当教員名	中村 幸子、新井 幸恵、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格：前期「介護総合演習」、「介護実習 - 2」を受けて、施設で実習した介護の全過程を明らかにし、ケーススタディとしてまとめる。また1年から3年までの基礎・展開科目の学習をとうして実践的総合的な知識や支援技術の到達度を明らかにし、自己課題を把握する。

- 科目の概要：1．利用者の自立（律）を支える介護実践の必要を、第3段階実習の学びから体得する。
 2．第1段階から第3段階までの介護実習（施設実習・在宅実習）を通じ、これまで学んできた知識、理論、技術、思考、態度を考察、自己課題を抽出する。
 3．介護過程の学習経過をケーススタディとしてまとめ、結果を実習報告会を企画、発表する。
 4．これらを通じて介護福祉士としての専門性を深め、社会的役割,また介護福祉士としての自己成長を見つめ、残された課題を理解する。

内容

- 1 利用者、家族、関連職種、実習指導者等の指導助言を受け、介護実習計画に基づき、介護を実施評価を受ける。
- 2 帰校日で、介護過程や支援技術の実施など、教員の指導助言を受ける。
- 3 実習後は 全実習を考察、とりわけ介護過程実施からの学びを軸に、介護福祉士としての自己 覚知を深め、自己課題を明らかにする。
- 4 介護過程をケーススタディとしてまとめ、実習報告会で発表、実習指導者や学生相互の評価を得 る。
- 5 発表態度・内容やケーススタディ報告会全般に関する評価を受け考察を深める。

評価

課題レポート、実習に関する記録物、教員との面接により、総合的に判断し60点以上を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】和田要他編「介護事例研究の手引き」日総研

【推薦書】 「すぐに役立つ事例のまとめ方と発表のポイント」中央法規

介護福祉教育研究会編「楽しく学ぶ介護過程」kumi

科目名	発達と老化		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	発達と老化		
担当教員名	蝦名 直美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	認知症の理解		
担当教員名	村上 哲雄		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、介護福祉士コースにおいて、認知症に対する医学的基礎的知識を習得し、介護の視点からの理解を深め、「認知症の理解」につなげる。

科目の概要

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症の人に認められる高次脳機能障害に基づく意思表示が困難などの特性を理解し、本陣のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

学修目標

- 1、認知症の医学的な基礎の理解が出来る。
- 2、認知症を心理的な面から理解が出来る。
- 3、介護の視点からの認知症への対応について学ぶ。

内容

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1、認知症の人の体験の理解
- 2、認知症の人の介護に向けて
- 3、本人本位の視点を確かなものにする
- 4、認知症の人の体験について
- 5、認知症を取り巻く状況
- 6、認知症ケアの歴史
- 7、認知症ケアの理念と視点
- 8、認知症の人の医学・行動・心理的理解
- 9、認知症とは？
- 10、認知症の診断
- 11、認知症の原因疾患と治療
- 12、認知症の予防
- 13、認知症の人の行動・心理症状
- 14、認知症の人の心理的理解
- 15、まとめ

評価

レポート1割(10%)、筆記試験9割(90%)

60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は「再試験」を行います。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

新・介護福祉士養成講座 12「認知症の理解」（中央法規出版株式会社）

発行者：荘村 明彦

2009年1月20日発行

科目名	認知症の理解		
担当教員名	戸田 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する

内容

認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援を、講義およびグループワークで学ぶ

1	認知症の人の生活理解 認知機能の変化と日常生活
2	環境の力 居住環境と生活環境
3	認知症の人の日常生活の継続と課題 リスクマネジメント
4	認知症介護の基本的視点
5	認知症の気づきとアセスメント
6	認知症進行別・病態別介護とターミナル期の介護
7	本人を支える視点とは 本人の思いとは
8	地域連携と協働 地域におけるサポート体制とは
9	チームアプローチ 多職種協働の継続的ケア
10	家族への支援 家族の思いとレスパイトケア
11	家族へのエンパワメント
12	認知症対策と介護保険
13	その他の制度と関連機関 成年後見制度と権利擁護事業
14	グループディスカッション
15	まとめ

評価

試験50点 レポート20点 平常点30点 60点以上で合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書: 認知症の理解 新・介護福祉士養成講座12 中央法規

推薦書: 「認知症介護のために知っておきたい大切なこと」パーソンドセンタードケア入門

トムキッド&キャスリーンブレディン著 高橋誠一監訳 筒井書房

「認知症とは何か」小澤 勲著 岩波新書 942

科目名	障がいの理解		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

授業の到達目標及びテーマ

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

授業の概要

障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を理解する。

内容

1. 障害の基礎的理解 障害の概念, 障害の捉え方 (ICFの考え方)
2. 障害者福祉の基本理念, ノーマライゼーション、国際障害者年の理念
3. 障害の医学的側面の基礎的知識 (「生きていることはどういうことか」を考える)
4. 身体障害, 視覚障害の種類と原因と特性 (身体障害の中で、もっとも社会認知度が高い視聴覚障害の原因と特性、ヘレンケラー状態の理解)
5. 身体障害, 聴覚障害、言語機能障害種類と原因と特性 (聴覚障害者の言語活動、特に手話教育と口話教育問題、人工内耳の導入、失語症等の高次脳機能障害を含む)
6. 身体障害, 肢体不自由の種類と原因と特性
7. 身体障害, 肢体不自由の種類と原因と特性
8. 身体障害, 内部障害の種類と原因と特性
9. 身体障害, 内部障害の種類と原因と特性
10. 精神障害の種類と原因と特性 (精神疾患の種類、症状、治療、ノーマライゼーションと排除の歴史)
11. 知的障害の種類と原因と特性 (知的障害の種類、原因、自己決断に関して、AAIDD10版を使用して概観する)
12. 発達障害の種類と原因と特性
13. 難病の種類と原因と特性 (難病の種類・原因と特性)
14. 難病の種類と原因と特性 (医学の進歩と限界、新しい試み)
15. 全体のまとめ(医学・医療の知識はどう生かされるか。業務独占の変化)

評価

学生に対する評価

試験60点 レポート20点 平常点20点とし、60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

テキスト 最新介護福祉全書11 障害の理解 メヂカルフレンド社

参考書・参考資料等 授業時、適宜紹介する。

科目名	障がいの理解		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[授業の目的・ねらい]

障がいをもつ人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障がいをもつ人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。

[授業全体の概要]

講義を中心とし、障がいをもつ人の特性、生活上の諸問題及び介護上の注意点などについて理解を深める。

[授業終了時の達成課題(到達目標)]

障がいをもつひとの立場から、介護の視点を考えることができる。

内容

[授業の各回のテーマと内容]

1. 障害の基礎的理解、障害の概念、障害の捉え方
2. 障害者の人権、障害者福祉の理念、ノーマライゼーション、国際障害者年の理念、その他
3. 障害をもつ人の心理、障害が及ぼす心理的影響
4. 障害の受容・適応と適応規制、その他
5. 視覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
6. 聴覚障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
7. 言語機能障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
8. 肢体不自由に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
9. 内部障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
10. 精神障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
11. 知的障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
12. 発達障害に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
13. 難病に伴う機能の変化と日常生活への影響及び家族への支援
14. 連携と協働、地域におけるサポート体制及び家族への支援
15. まとめ

評価

[単位認定の方法及び基準]

試験50点 レポート20点 平常点30点

60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

[使用テキスト]

谷口敏代編 『こころとからだのしくみ 障害の理解 最新介護福祉全書11』メヂカルフレンド社
(ISBN978-4-8392-3151-4)

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護技術の基本となる,人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や,心理的側面への配慮について理解する学習とする。

内容

1	ガイダンス、 第1章 「生きている」しくみの理解
2	第2章 こころのしくみの理解
3	第3章 「身じたく」に関連したこころとからだのしくみ 身じたくに関連する基礎知識
4	機能の低下・障害が及ぼす身じたくへの影響、 変化の気づきと医療職との連携
5	第4章 「活動」に関連したこころとからだのしくみ 活動に関連する基礎知識
6	活動と生活動作、 活動の低下・障害が活動に及ぼす影響、
7	活動に関する変化の気づきと医療職との連携
8	第5章 「食事」に関連したこころとからだのしくみ 食事に関連する基礎知識
9	消化と吸収 機能の低下・障害が食事に及ぼす影響
10	安全な食事のための留意点
11	第6章 「排泄」に関連したこころとからだのしくみ 排泄に関連する基礎知識
12	排泄の意義としくみ
13	排泄のしくみが乱れる機能の低下・障害
14	排泄に関する変化の気づきと医療職との連携
15	まとめ

評価

[単位認定の方法及び基準]

試験60点,レポート20点,平常点20点, 60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

最新介護福祉全書12「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

科目名	こころとからだのしくみ		
担当教員名	中村 幸子、高世 秀仁		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

介護技術の基本となる,人体の構造や機能および介護サービスの提供における安全への留意点や,心理的側面への配慮について理解する学習とする。

内容

1	第6章「入浴、清潔保持」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
2	入浴、清潔保持の実際
3	機能低下や障害が「入浴、清潔保持」に及ぼす影響
4	「入浴、清潔保持」における変化の気づきと医療職との連携
5	第8章 「睡眠」に関連したこころとからだのしくみ 基礎知識
6	生活習慣と睡眠
7	高齢者の睡眠障害
8	安楽に関連したこころとからだのしくみ 安楽の生理的意味
9	安楽、リラックス、爽快感を感じるしくみ
10	第9章 死にゆく人のこころとからだのしくみ 「死」の捉え方
11	終末期から危篤、死亡時のからだの理解
12	「死」に対するこころの理解、「死」の受容段階
13	家族、医療の実際と介護の連携
14	グリーフケア
15	まとめ

評価

試験60点 レポート20点 平常点20点 60点以上合格

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

最新介護福祉全書 1 2 「こころとからだのしくみ」メヂカルフレンド社

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	大山 博幸、栗原 直樹、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必, 必修*, 選択
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 社会福祉現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉に係る知識、技術を具体的、实际的に理解する。
- 3 社会福祉専門職としての資質、技能、倫理等について総合的対応能力を習得する。

内容

- 1 オリエンテーションにより実習概要、意義を理解する。
- 2 視聴覚学習、従事者の講義から実習先、利用者、専門職の立場、倫理等について事前に学習する。
- 3 実習中は巡回指導を行う。
- 4 実習後は事後指導とともに実習の評価全体総括会により実習の深化を図る。

評価

事前学習、実習評価、事後指導等総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

学科作成のマニュアルを使用

科目名	社会福祉実習		
担当教員名	栗原 直樹、大山 博幸、片居木 英人、佐藤 陽 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*, 選必
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 社会福祉現場実習の意義について理解する。
- 2 社会福祉に係る知識、技術を具体的、実際に理解する。
- 3 社会福祉専門職としての資質、技能、倫理等について総合的対応能力を習得する。

内容

- 1 オリエンテーションにより実習概要、意義を理解する。
- 2 視聴覚学習、従事者の講義から実習先、利用者、専門職の立場、倫理等について事前に学習する。
- 3 実習中は巡回指導を行う。
- 4 実習後は事後指導とともに実習の評価全体総括会により実習の深化を図る。

評価

事前学習、実習評価、事後指導等総合的に評価する。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

学科作成のマニュアルを使用

科目名	介護基礎（入門）		
担当教員名	新井 幸恵		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：「高齢者に対する支援と介護保険制度1」、「同」、「保健医療サービス論」とは制度的な理解を共通とし、認知症高齢者の理解や介護を計画的に考える介護過程の作成などと連動する。また、「医学一般」「障害者福祉論」とは介護を提供する当事者の理解を進めるために相互に関連し合う。「家政学演習」とは更に家事援助に関連する密接な科目である。「社会福祉実習」等でこれらが活かされるよう具体的な生活支援技術を学ぶ。

科目の概要：高齢化が進行する社会では、高齢者も障害を持ち身体的、心理的、社会的なニーズが増す。学生自身の家族や自身の体験から、障害の種別を超えて介護への経験も増してきた。しかし、当事者は介護を受ける客体ではなく人生の主体として、生活への支障を持ちながらも生き生きと暮らすことを望んでいる。介護技術が生きる意欲を励まし、暮らしを豊かにする手立てとして有効に活用できるよう、年齢特性、障害特性や様々な社会的特性に応じた生活支援技術を学ぶ。

- 学修目標：1) 介護に寄せる当事者の暮らしのニーズを理解する
 2) 当事者の自立への意思を尊重した生活支援技術のプロセスを習得する
 3) 環境の整備、身支度、家事支援に関する支援技術を習得する

内容

1	オリエンテーション 介護福祉の基礎はコミュニケーション
2	介護を必要とする人々の暮らしの理解 介護福祉の諸分野
3	支援技術の価値とその視点 ICFの視点に学ぶ
4	支援技術の価値とその視点 生活文化の視点から学ぶ
5	介護支援技術の基礎 寝室の整え 車イスに触れる
6	自立に向けた居住環境の整備 居住環境の原則とアセスメント
7	自立に向けた居住環境の整備 在宅、施設における居住環境の視点
8	身支度の支援技術 利用者の尊厳を支える視点とアセスメント
9	身支度の支援技術 衣服の選択や着脱の支援
10	家事支援技術 在宅介護の諸分野
11	家事支援技術 食事支援の実際
12	睡眠の支援 メンタルな障がいとの関連で
13	睡眠の支援 支援の在り方 連携の技法
14	まとめ
15	振り返り

評価

提出物30点 筆記試験70点 60点以上を合格とする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教科書：柴田範子「生活支援技術1」ミネルヴァ

推薦書：井上千津子編「介護の基本」ミネルヴァ

社会福祉法人共同福祉会「介護の基本」クリエイツかもがわ

科目名	介護基礎（応用）		
担当教員名	中村 幸子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人間の自然なからだの動きを理解し、身体機能の低下や障害が、日常生活に与える影響を理解する。
さらに援助を要する人の自立・自律を尊重した、安全かつ適切な介護技法について理解するとともに、
尊厳を支える介護について実践をめざす。

内容

1	ガイダンス、介護技術を学ぶ意義
2	介護者の健康管理：健康な心身と生活について理解する。ボディメカニクスの活用
3	移動の意義と目的、移動に関するアセスメント、ICFの視点、
4	移動介助の技法・留意点
5	食事の意義と目的、食事に関するアセスメント、介護技術の原則
6	食事介助の技法および誤嚥時の対応
7	入浴・清潔保持の意義と目的、入浴・清潔保持に関するアセスメント・ICFの視点、
8	入浴・清潔保持の技術の原則、介助・清潔保持の介助の技法・留意点
9	排泄の意義と目的、排泄に関するアセスメント、技術の原則
10	排泄介護の技法・留意点（オムツの適切な活用法）
11	睡眠の意義と目的、睡眠に関するアセスメントとICFの視点
12	睡眠に関する介護技術
13	終末期における介護の意義と目的、高齢者の尊厳を支える介護
14	終末期介護の基礎知識
15	まとめ

評価

試験60点,レポート20点,平常点20点, 60点以上合格

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

柴田範子編 介護福祉士養成テキストブック「生活支援技術」ミネルヴァ書房

科目名	児童・家庭福祉論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 高等学校教諭一種免許状(福祉)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要(一人親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援及び青少年育成等)と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利(子どもの最大の利益を実現する視点)を理解する。
- 4 児童福祉法、児童虐待防止法、DV法、母子及び寡婦福祉法、母子保健法、児童手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法等の支給に関する法律、次世代育成支援対策推進法のあらましを理解する。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢(少子化、いじめ、少年非行、家庭養育機能等)
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利(児童福祉法、児童の権利に関する条約等)
5	児童福祉法
6	児童虐待の防止に関する法律
7	DV法の概要及び売春防止法の概要
8	母子及び寡婦福祉法
9	母子保健法
10	児童手当法・児童扶養手当法・特別児童扶養手当の支給に関する法律の概要
11	次世代育成支援対策推進法・少子化対策推進法
12	児童・家庭福祉制度における組織及び団体の役割と実際(国・都道府県・市町村等の役割)
13	児童・家庭福祉制度における専門職の役割と他職種連携と実際
14	児童相談所の役割と実際
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、合格点に達しなかった場合には再試験を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

児童や家庭に対する支援と子ども家庭福祉制度 ミネルヴァ書房

参考図書 社会福祉六法

科目名	児童・家庭福祉特論		
担当教員名	栗原 直樹		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

- 1 現代社会における子ども・家庭福祉の実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要（一人親家庭、児童虐待、DV、地域における子育て支援及び青少年育成等）と実際を理解する。
- 2 子ども・家庭制度の発展過程を理解する。
- 3 子供の権利（子どもの最大の利益を実現する視点）を理解する。
- 4 社会的養護、子ども虐待の現状を理解する。

内容

1	児童・家庭の生活実態とこれを取りまく社会情勢（少子化、いじめ、少年非行、家庭養育機能等
2	児童・家庭の福祉需要
3	児童・家庭福祉制度の発展過程
4	児童の定義と権利（児童福祉法、児童の権利に関する条約等）
5	母子保健
6	障害児
7	保育
8	ひとり親
9	非行児童
10	いわゆる情緒障害児
11	社会的養護の現状（施設等）
12	社会的養護の現状（里親、養子縁組等）
13	子ども虐待の現状と課題（児童相談所と法的課題）
14	子ども虐待の現状と課題（家族再統合などの支援）
15	まとめ

評価

レポート40点、筆記試験60点とし、60点以上を合格とする。但し、60点に達しない場合には再試験を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業において資料提供する。

参考図書 社会福祉六法

科目名	社会調査の基礎		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.社会調査の意義と目的および方法の概要を理解し、社会福祉援助技術における位置づけを理解する。
- 2.統計法の概要、社会調査における倫理・個人情報保護について理解する。
- 3.量的調査の方法および質的調査の方法について理解する。

内容

1	社会調査の意義と目的および対象、社会福祉援助技術としての留意点
2	統計法の概要および各種統計の利用方法
3	課題 : 統計データの検索と分析
4	社会調査における倫理および個人情報保護
5	量的調査の分類 - 全数調査と標本調査(含サンプリング)、横断調査と縦断調査等
6	量的調査の方法 - 自計式調査と他計式調査、測定の水準、信頼と妥当性等
7	量的調査における質問紙の作成方法と留意点、配布と回収方法
8	量的調査におけるデータの集計と分析
9	課題 : 質問紙の作成と集計・分析例の検討
10	質的調査の方法 - 観察法・面接法
11	質的調査における記録と留意点
12	質的調査によるデータの整理と分析
13	質的調査の分析例の検討
14	社会調査におけるITの活用方法
15	レポート発表および講評

評価

受講態度10%、授業中の課題の評価30%、レポートの評価60%

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書: 森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	社会調査の応用		
担当教員名	宮城 道子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1.社会調査の知識・技法にもとづいて、現代社会を深く理解することをねらいとする。
- 2.福祉の間接援助技術としての社会福祉調査の特徴を理解する。
- 3.社会調査の成果と限界を理解する。

なお、前期「社会調査の基礎」を履修したうえで、本科目を履修することが望ましい。

内容

課題を設定し、その解決のアプローチとなる社会調査の企画・実施・結果の分析・報告等のシュミレーションを行う。

- 1.調査のねらいとテーマ設定
- 2.企画書の作成
- 3.調査票の作成および実施
- 4.調査結果の集計・分析
- 5.調査結果のとりまとめ
- 6.レポートの作成とプレゼンテーション

評価

受講態度(10点)、授業中の課題(30点)、レポート(60点)

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

推薦書：森岡清志編著「ガイドブック社会調査」第2版、日本評論社、2007

根本博司他編著「初めて学ぶ人のための社会福祉調査」中央法規

社会福祉士養成講座編集委員会編「新・社会福祉士養成講座5社会調査の基礎」中央法規

科目名	公的扶助論		
担当教員名	長友 祐三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

公的扶助は社会保障制度の一環として、社会保険とともに国民の経済保障機能を有するもので、わが国の場合、生活保護制度がこれに該当する。生活保護制度は国民を守る最後の砦(セーフティネット)として、各種社会福祉・社会保障プログラムの中でも他に例を見ない精緻な考え方と仕組みを有している。また多くの社会福祉サービスは本制度を母体として誕生している。

本講では、公的扶助(生活保護)の諸外国及び日本での沿革、現代社会における理念と意義、制度の原理・原則とその仕組み、最近の動向及び現実的課題などを紹介し、最低生活保障における所得給付と社会福祉サービスとは何かを学ぶ。

内容

- 1 貧困の概念について理解する。
- 2 貧困・低所得問題の現状について理解する。
- 3 公的扶助の概念・範囲・定義などにつき、社会保険や社会福祉などとの対比において理解する。
- 4 海外とわが国における公的扶助の歴史について学習する。
- 5 福祉事務所と生活保護の実施体制について学ぶ。
- 6 生活保護の目的および基本原理・原則について理解する。(1)
- 7 生活保護の目的および基本原理・原則について理解する。(2)
- 8 生活保護の目的および基本原理・原則について理解する。(3)
- 9 生活保護の種類とその内容・方法について学習する。
- 10 生活保護における基準の意義とその具体的内容について理解する。
- 11 低所得者対策の概要(生活福祉資金・社会手当)を学ぶ。
- 12 ホームレス対策の現状と課題を学ぶ。
- 13 生活保護制度における相談援助活動について理解する。(1)
- 14 生活保護制度における相談援助活動について理解する。(2)
- 15 生活保護における自立支援について理解する。

評価

小レポート3回(30%)と期末レポート(70%)による総合評価とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

新社会福祉士養成「低所得者に対する支援と生活保護制度」(中央法規)2011

科目名	公的扶助特論		
担当教員名	長友 祐三		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

公的扶助は社会保障・社会福祉制度の一環として、社会保険とともに国民の経済保障機能と社会福祉サービス機能を有するもので、わが国の場合、生活保護制度がこれに該当する。

本講義では、最近の生活保護の動向及び生活保護制度における現実的課題などを紹介し、最低生活保障における給付と社会福祉の援助・支援とは何かをソーシャルワークの視点から理解する。また、事例を通して、生活保護の制度運営と制度運用の現状と課題についても学ぶ。

本講義の履修にあたっては、原則として公的扶助論が履修済みであること。

内容

- 1 貧困をどうとらえるか
- 2 貧困問題とは何か
- 3 貧困と社会的排除について考える
- 4 貧困とセーフティネットについて考える
- 4 福祉国家と公的扶助制度の形成
- 5～6 生活保護法の理念と原理を学ぶ
最低生活保障とは何か
- 7～9 生活保護法の理念と原理を学ぶ
自立の助長とは何か
- 10 公的扶助制度におけるスティグマの検討
- 11 公的扶助制度におけるアウトリーチの検討
- 12 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 13 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 14 公的扶助ソーシャルワークの実際
- 15 公的扶助ソーシャルワークをめぐる諸課題

評価

小レポート3回(30%)と期末時のレポート(70%)による総合評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

前期「公的扶助論」で使用した教科書を使います

科目名	介護技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	形態別介護技術演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	形態別介護技術演習		
担当教員名	新井 幸恵、当山 啓		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

- 1 視覚障がい者の介護に関する医学的知識・技術、支援上の連携について学ぶ
- 2 とりわけコミュニケーション手段である、点字に関する初歩的な知識を学ぶ
- 3 福祉用具の基礎知識を得る
- 4 視覚障がい者の日常生活に関する支援のあり方を学ぶ

内容

- 1 点字の読み方、書き方を学び基礎的な練習問題を通じてコミュニケーションの実際を知る
- 2 様々な福祉用具を駆使した移動・歩行介護・日常生活支援の実際を学ぶ
- 3 視覚障がいの医学的・心理学的理解を深める
- 4 地域や施設における視覚障がい者の介護を学ぶ

評価

平常点30点 試験70点 60点を合格とする

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】「点訳のしおり」日本点字図書館編
- 【推薦書】 「点字点訳基本入門」日本点字図書館
「日本点字表記法」大活字
「視覚障害者が街を歩くとき」都市文化社

科目名	介護実習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

科目名	介護実習		
担当教員名	新井 幸恵、中村 幸子、野島 靖子、宮内 寿彦		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	介護実習指導		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	家庭支援演習		
担当教員名	野島 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

高齢社会において、今後、一層ニーズが高まることが予想される訪問介護員についての知識と技術を習得することを目指す。

本科目は、訪問介護員2級研修修了者に対する単位認定科目である。

内容

訪問介護員2級研修の授業内容は次のとおりである。(130時間以上)

講義：「福祉理念とケアサービスの意義」「高齢者保健福祉の制度とサービス」「ホームヘルプサービスの概念と現状」「障害・疾病の理解」「住宅・福祉用具に関する知識」「生活援助の方法」など

演習：「基本介護技術1～8」「共感的理解と基本的態度の形成」「訪問介護計画の作成と記録」など

実習：「特別養護老人ホーム」「老人デイサービスセンター」「ホームヘルプサービス同行訪問」など3箇所

評価

「訪問介護員2級資格取得養成研修講座」の修了証書と所定の申請による単位認定を行う。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

教科書は、講座開始時に紹介する。

科目名	医学一般		
担当教員名	高木 俊治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	社会福祉士受験資格 / 介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

[講義の目的・ねらい]

介護福祉の分野で必要な医学領域のうち、公衆衛生を含む社会医学面を理解する。

[講義全体の内容の概要]

講義中心・・・可能なかぎり、図や映像を使い、理解を助ける。

[講義修了時の達成課題 (到達目標)]

日本の介護医療・福祉の現状と問題点を整理して理解できること。 ?

内容

1. 「生きている」ことへの理解・・・医学・生物学の基礎知識
2. 人口静態と人口動態
3. 地域保健対策と健康増進対策 (1)
4. 地域保健対策と健康増進対策 (2)
5. 障害とリハビリテーション医療 (1)
6. 障害とリハビリテーション医療 (2)
7. 感染症の理解
8. 難病の理解
9. 精神保健医療の理解(1)
10. 在宅医療と自己決定 (1)
11. 在宅医療と自己決定 (2)
12. 医療システムの現状 (1)
13. 医療システムの現状 (2)
14. 医事法制
15. まとめ

評価

[単位認定の方法および基準]

試験60点 レポート20点 平常点20点

60点以上合格 ?

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

介護福祉士養成講座 9巻 (医学一般) 中央法規 ?

科目名	レクリエーション活動援助法		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	介護福祉士		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	基礎演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Aクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	基礎演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	1Bクラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

科目名	基礎演習		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部-人間福祉学科専門科目		
学 年		ク ラ ス	10クラス
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係			

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

内容

評価

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)